大田区地域福祉活動計画
推　進　委　員　会

（令和６年度　第２回）

○日　時：令和７年３月 ６日（木）
10 時 00 分～11 時 45 分
○会　場：大田区社会福祉協議会
４階会議室

１．はじめに（進行：事務局）

２．委員長挨拶

３．新任委員の紹介　資料１

４．報告事項（おおた広がれボランティアのつどい・地域福祉フォーラム開催報告）
資料２－１・２

５．審議事項（進行：委員長）

（１）計画の進行管理について　資料３

（２）計画の評価指標について　資料４－１・２

（３）意見交換

６．連絡事項その他
（１）次回開催予定：令和７年５月２６日（月）10：00～
大田区社会福祉センター4 階会議室

資料1

大田区地域福祉活動計画推進委員会　委員名簿

	氏　名	選出母体・役職等
委員	黒 岩 亮 子	学識経験者（日本女子大学　准教授）
委員	吉 野 鷹 夫	大田区自治会連合会
委員	樋 口 幸 雄	大田区自治会連合会
委員	常 安 雅 彦	大田区民生委員児童委員協議会会長
委員	宮 澤　　勇	NPO法人大身連理事長
委員	川 﨑 洋 子	大田区精神障害者家族連絡会会長
委員	橋 本 朋 子	大田区肢体不自由児（者）父母の会会長
委員	宮 田 千寿子	大田区重症心身障害児（者）を守る会会長
委員	閑 製 久美子	大田区手をつなぐ育成会会長
委員	沼 本 光 史	大田区シニアクラブ連合会
委員	村 山 美智恵	大田区食事サービス連絡会会長
委員	中 野 真 弓	NPO法人おおた市民活動推進機構代表理事
委員	齋 藤 弘 美	社会福祉法人大洋社常務理事
委員	佐 藤 正 浩	大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA所長
委員	浜 洋子	NPO法人大田区介護支援専門員連絡会
委員	西 嶋 美 波	東京都社会福祉協議会 地域福祉部地域担当
委員	黄 木 隆 芳	大田区福祉部

おおた広がれボランティアのつどい 2024　報告書

【日時・場所】

令和６年１２月１５日(日)　13：30～16：30　カムカム新蒲田多目的室

【来場者数】

160 名（一般参加 101 名、社協職員・区関係者 59 名）

【目　的】

様々な分野のボランティアがつどい、ボランティア活動や地域活動を身近に感じ、気軽に楽しく参加できるよう、地域のボランティアについて知る機会とする。また、地域を支える担い手として力を発揮でき、いきいきと過ごせるようボランティア活動への参加意識を啓発するため。

【内　容】

第１部　基調講演「ボランティア活動が育む 共に生きる力」

講師　日本福祉大学 学長 原田正樹先生

第２部　ボランティアによるトークセッション

①　特技ボランティア　演奏：メロディクルーズ

②　こども食堂　羽田のこのこ食堂

③　絆サポーター　小林　正二さん

④　傾聴ボランティア　話の泉会

⑤　災害ボランティア　小野　紀之さん

◎　ボランティア情報コーナーを会場内に設置し、区内ボランティア団体、福祉施設等のボランティア募集のチラシを配置し、ボランティア活動について周知した。（２６団体参加）

◎　能登半島地震･豪雨災害募金箱を会場内に設置し､15,188 円の募金をいただいた。

アンケート結果／回収 83

（１）本イベントは何でお知りになりましたか（複数回答　90）

職員からの紹介…29、チラシ…21、社協ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ・X… 9

（２）「第１部　基調講演」についてご感想を教えてください

大変よかった…69(83%)、よかった…14(17%)

（３）「第２部　ボランティア発表」についてご感想を教えてください

大変よかった…68(82%)、よかった…15（18%）

（４）その他ご意見やご感想等ございましたら、ご自由にご記入ください

- ボランティアを様々な視点から考えることが出来る、とても良いつどいだった。
- 第二部での原田先生の問いかけは皆が知りたいと思っていた事で､より詳細に活動を知ることが出来た。
- 第一部→質問時間が欲しかった。
- 参加者が関係者の方や高齢（のような）方々がほとんどでしたので、大田区の高校、大学の方に働きかけて、若い世代の方が来てくれることを望みます。
- 毎年の開催(定期開催)を希望します。

資料２－２

R6 年度　地域福祉フォーラム　報告書

【日時・場所】

令和７年２月１１日(火・祝)　カムカム新蒲田多目的室

【参 加 者】

参加者数 104 名(昨年 110 名)　…事前申込：110 名／当日申込：7 名／欠席：13 名

アンケート回答 92 名(回収率　88%)

(社会福祉法人・民生委員・地域活動団体・企業・自治会町会・個人 Vo・議員・専門職..)

【目　的】

①地域共生社会の実現に向けた取り組みについて、地域福祉 Co の実践を報告し、その役割や効果について幅広く周知する。

②社会福祉法人協議会と共催することで、社会福祉法人の職員が日々の福祉実践を地域福祉の文脈の中で捉え返し、自らの仕事に反映し、地域福祉を推進する積極的役割を担う契機とする。

【内　容】

第１部：講演「大田区らしい地域共生社会」　日本大学　諏訪　徹　氏

第２部：報告「社会福祉法人協議会について」

「大田区地域福祉コーディネーターの実践報告」

意見交換「参加者同士による意見交換」

【当日の様子】

第一部の諏訪先生の講演では、これまでの地域福祉の歴史を振り返りつつ、大田区のこれまでの取り組みとこれから目指すべき、大田区らしい地域共生社会の在り方についてお話しいただきました。

第二部では、4 地区の地福祉コーディネーターの取り組みを、社会福祉法人を中心とした様々な活動者とともに取り組みの報告がありました。

これらを踏まえて、その後の意見交換会では、会場を 20 グループに分けてディスカッションを行いました。

会場には、多様な立場の方が来られており、ディスカッションでは互いを知り、大田区のこれからについて白熱した議論が交わされました。

アンケート結果(抜粋) アンケート回答 92 名(回収率　88%)

1.「第一部　講演」について感想を教えてください

① 非常に良かった	51 (55%)	④ あまり良くなかった	0
② 良かった	33 (36%)	⑤ 良くなかった	1 (1%)
③ 普通	4 (4%)	⑥ 無回答・不参加	3 (3%)

2.「第２部　地域福祉コーディネーターによる事例報告」について感想を教えてください

① 非常に良かった	58 (63%)	④ あまり良くなかった	0
② 良かった	30 (32%)	⑤ 良くなかった	1 (1%)
③ 普通	2 (2%)	⑥ 無回答・不参加	1 (1%)

3.「第２部　グループディスカッション」について感想を教えてください

① 非常に良かった	53 (57%)	④ あまり良くなかった	0
② 良かった	28 (30%)	⑤ 良くなかった	0
③ 普通	1 (1%)	⑥ 無回答・不参加	10 (10%)

4.「第一部　講演」について感想を教えてください(自由記述　抜粋)

・地域福祉と大田区を例に具体的に話してくれたのが良かった
・諏訪先生のお話で出てきた言葉が、日ごろ自分が使っている言葉と共通点が多く、大変共感できました。サービスだけでなく、役割をもってかかわれるコミュニティを育てる施策事業が大事です。
・地域で活動していて、そうだそうだという気づきがいくつもあった。
・民生委員として自分の役割を再認識することができました。

5.その他、ご意見や感想等ございましたら、ご自由にご記入ください。

・いろいろな立場の方のお話を聞くことができて興味深く、これからについて考える良い機会となりました。地域福祉コーディネーターのこれからの役割はもっと広がっていって欲しいと思いました。
・グループディスカッションは時間が足りなかったです。
・良かったです。毎年つながりが出来る会になって欲しいです。お疲れ様でした。
・他地区のお話しを聞かせていただき、勉強になりました。
・地域のつながりづくりに取り組んでいらっしゃる事例や想いが伝わってきて良かった。地域を愛してつながる場づくりを続けてまいりたい。
・日常の生活の中で、本日学んだことを活かしていきたい。
・これだけの人が集まってすごい、大田区は本気だと感じた。
・事例報告は、ともに取り組んでいる皆さんも登壇したのが良かったです。

第7次大田区地域福祉活動計画　進捗状況管理表　　基本理念:みんなでつくる　共につながりあう　まち　　資料　3

基本目標		5 年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
				大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
1	顔が見える関係性を大切にするまち	ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」を作っている	取組1:日常的にゆるやかにつながり、災害時などに助けあえる関係性をつくろう。	・住民がイベント情報や地域の取組を共有できるよう地域の情報をシェアしやすいオンラインプラットフォームを構築します。 ・写真や投稿を通じて、コミュニケーションの輪を広げます。 ・自治会・町会、民生委員児童委員と住民、地域活動団体、社会福祉法人、企業がつながることの大切さをあらためて再認識し、住民相互の活動への参加や協力を積極的に行えるよう、情報提供や集う場の設定を支援します。	・地域福祉コーディネーターが積極的に地域に出向き、望まない孤独・孤立を抱えている人が地域とつながれるよう支援します。 ・身近な場所で開催する災害ボランティアに関する講座などを通じて、日頃から地域の中でつながりを持っていることが災害時のささえあいの基礎となることをお伝えし、講座に参加された人同士がつながりを持つ機会となるよう事業展開します。	【地域共生担当】 ・個別の相談に来られた方を地域資源につないでいくことで孤独・孤立を解消していきます。年間を通して全ケース数の 3 分の 1 以上の方を地域資源につないでいきます。 【ボランティア担当】 ・災害ボランティア事業 　災害ボランティアセンター事業として行う、普及啓発事業や育成講座(8月 29 日開催予定)の中で、講義や参加者同士のグループワークを通して、地域の中でのつながりの大切さを学びあいます。 ・ご近所さん事業 　対象者を産前 2 か月からに広げ、「ご近所さんサポーター」が概ね1歳の誕生月までに子どもを育てている世帯を訪問することで、より一層の地域でのつながりづくりを支援します。今年度は大森東・嶺町地区に加えて、対象地区を拡大する予定(1～2カ所)です。	【地域共生担当】 令和6年度上半期(9 月末)の個別支援ケース196 件に対して地域資源につなげているケースが 32 件(16%)となっています。重層的支援会議を実施したケースにおいて専門職の支援の調整だけではなく、地域の資源を活用して本人の孤独・孤立の解消向けて支援を行いました。 【ボランティア担当】 **・災害ボランティア事業** 普及啓発事業(10/6 嶺町小学校防災拠点訓練への参加。参加者数約 70 名)及び育成講座(8/29 災害ボランティア体験「もし大田区で被災したら－被災者から支援者へ－」参加者数18 名、11/16「災害ボランティアバンク登録者交流会」参加者数 17 名)を通して、子どもから大人まで、地域の中で災害時に助け合えるような顔の見える関係になることの大切さを伝えました。 令和7年度も、大田区及び関係団体と協働した普及啓発事業及び育成講座を通して、日頃からの地域の中でのつながりが災害時の支え合いの基礎となることを伝えていきます。 **・ご近所さん事業** 利用者数は、令和5年度と比較して5割減少しています。令和6年6月から始まった区のファミリーアテンダント事業が影響していると思われます。利用者数:21 名、サポーター数:38名(令和6年11月30日時点) 令和6年度に対象地区の拡大(1カ所)を検討しましたが、利用予定者が少数と見込まれるなどの要因があったため、拡大を見合わせました。 この事業は、ご近所さんサポーター(地域のボランティア)と子育て世帯が、利用中だけではなく、利用終了後も地域であいさつを交わすなどのゆるい関係を構築しています。また、ファミリーアテンダント事業を利用できない第2子を出産されたお母さん宅への訪問などのニーズがあるため、継続して実施してく予定です。 令和7年度は、利用者へのヒアリングを実施し、ニーズ把握と課題整理を行い、対象地区の

基本目標	5 年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
			大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
					・れいんぼう事業 おおた福祉ネット「おおたスマイルプロジェクト」の活動を通して、子どもが生きる力を身につけることを目的として、社会福祉法人や民生委員児童委員・企業など多様な機関とつながりながら、こども民生委員の活動など地域で子どもと子育て世帯を見守る緩やかなネットワークを作ります。	拡大に向け再度検討を行います。 **・れいんぼう事業** 大森、久が原の各地区ごとに、毎月「学習、食育、健康・園芸」プログラムを実施。2月には漢字検定に挑戦し、1年間の学習の成果を発揮する機会となりました。体験プログラム「子ども民生委員活動」では、6 月委嘱式、10 月いつつのわふれあいまつり参加、12 月街頭募金活動を通して、大森東地区民児協にご協力いただきながら、福祉人材を育成する機会となりました。 令和7年度は、コロナで中断していた一般募集を行い、地域からの参加者を増やします。広報にあたっては、法人協、民児協、専門機関などとつながりながら実施していきます。
	地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている	取組 2：同じ地域で暮らす人々や、活動を行う団体、企業がつながりあえる場をつくり、地域の中での困りごとを受けとめよう。	・地域で暮らす人や活動する人などが集う場を設け、地域の課題や困りごとなどを受けとめ解決に向けた動きを共に考える機会とします。 ・オンラインも含めた気軽に話せる場づくりを検討し、多様な形での交流を実施します。 ・住民懇談会で本計画の進捗状況について意見交換し、今後の取組につなげていきます。	・プラットフォームから生まれた新たな地域の取組を支援し、地域づくりにつなげます。 ・地域の中のさまざまな活動団体などの情報を整理し、その情報を必要とする人に届くよう提供するしくみを整えます。	【計画・組織基盤・人材育成担当】 ・住民懇談会 今年度は7月 29 日～8月1日にかけて開催します。4つの会場を設け、広く地域のさまざまな方に参加していただけるよう呼びかけます。7月発行予定の「おおた社協だより」でも告知する予定です。参加者数 100 名を目指し、多くの声を受けとめます。 【地域共生担当】 ・プラットフォームや地域の居場所などで、地域住民同士が地域課題について共に考える場を設定し、地域課題について取り組んでいくとともに、実施結果を社協 HP や SNS などで発信していきます。	【計画・組織基盤・人材育成担当】 **・住民懇談会** 予定どおり実施し、4会場合計で61名の参加がありました。広報等に力をいれましたが、参加者は減少傾向にあり、開催日を平日だけでなく休日も実施したり、こちらから会合に出向いて出張開催をしたりするなどして、令和7年度はより多くの方からのご意見を伺える体制づくりを検討します。 【地域共生担当】 今年度新規に1か所のプラットフォームを立ち上げ（池上徳持南地区）4か所となりました。 実施結果等を社協HPに計18回、SNS には随時発信しました。今後も地域ごとに地域課題について話し合いを重ねながら地域の課題・状況に合わせて「外国籍住民の課題」「障害当事者の居場所」「小地域ごとの居場所」「子ども SOS の家の普及啓発」等の活動を行っていきます。

基本目標		5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
				大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
2	自分の居場所や役割があるまち	地域の中で生きがいを持って、生活することができる。	取組 3：地域の活動などに参加したり、役割の担い手になったりすることで、いきいきと過ごせるようにしよう。	・さまざまなボランティア活動や地域活動などへの参加のきっかけを作り、地域の中での新たな活躍の場を広げます。 ・大田区社会福祉法人協議会（おおた福祉ネット）として「ふくしのしごと市」を開催し、福祉専門職や資格がなくても働ける職も含め、担い手づくりを進めます。	・地域で活動する団体の担い手不足と地域で活動してみたいと考える人の情報をつなぎ、つながりと交流の場を広げます。 ・高齢者や産前産後の人、障害のある人への家事支援を行う「絆サポート」や、見守りが必要なご家庭への定期的な訪問活動「ほほえみごはん事業」「ご近所さん事業」、一人暮らし高齢者の安否確認を兼ねた訪問活動「ほほえみ訪問事業」などを、住民のささえあい活動により展開することで、幅広い年代の人が性別や経歴を問わず活躍できるよう取り組みます。 ・特技を披露したり、使用済み切手を整理したりするなど、ボランティア活動にもさまざまな形があり、それぞれにあった活動の紹介をすることで、支援を受けている人も支援する側にまわることができ、それがやりがいや生きがいづくりにもつながるようコーディネートします。 ・いくつになっても自分らしく役割を持って生活したい人の	【ボランティア担当】 ・絆サポート事業 この事業を支える新規絆サポーターの増員を目指します。（目標：前年比 200%　32 人） 今年度は、地域に出向いて、絆サポーター出張登録会を 4 回～6 回程度開催してサポーターの担い手を増やすことで、住民のささえあい活動がさらに発展し、絆サポーターにとってのやりがいにもつながるよう取り組みます。 ・ほほえみ訪問 今年度から安否確認に加え、地域への情報提供を強化することで利用者とサポーターとのコミュニケーションを充実させ、利用者の孤独感解消につながるよう取り組みます。 ・ほほえみごはん 活動している方の声を大切にすることで、ささえあい活動でのつながりがより充実したものになることを目指します。具体的には、訪問や電話、LINEなど多様な方法を活用し、モニタリング、アンケートを実施したり、活動されている方々が交流できる機会を増やしたりします。 【就労センター】 就労や社会参加活動等に関する支援を行います。 ・就労等窓口相談及び職業紹介（通年） ・個別カウンセリング（原則毎水曜日　48 回/年）	【ボランティア担当】 **・絆サポート事業** 令和6年 12 月現在 新規絆サポーター登録　38 人 絆サポーター出張登録説明会　3 回開催　新規絆サポーター登録 5 人（合計 43 人） B カフェ（絆サポーター研修会）2 回開催 29 名参加 令和7年度から絆サポート産前産後サービスの利用期間を拡大（産前 8 週・産後 12 週→産前 16 週・産後 24 週）します。 着実な絆サポーター（担い手）の増強と、それに伴うサービスの充実に取り組んでいます。 今後も絆サポートを通して、地域の中で役割を持つことのできる活動の拡大に取り組みます。 **・ほほえみ訪問** 地域のサポーターが、利用者に地域情報のパンフレット等を届けることで、コミュニケーションを充実させ、利用者が困りごとをサポーターに相談することが増えました。利用者の状況によっては、関係機関につなぎ、連携して利用者の生活を支えました。 令和7年度も関係機関と連携し、幅広い年代の人が性別や経歴を問わず多くの方がサポーターとして活躍できるよう取り組みます。 **・ほほえみごはん** 子育て中の 106 世帯に 72 名の活動者が関わり食を通じた支えあい活動を展開しています。活動終了後は利用世帯と活動者それぞれにアンケートで状況を調査し、利用者の声を活動者にお届けしています。年２回の連絡会と年 1 回の研修を通じて活動に関するスキルアップを図るとともに活動者の声を聞き、交流を深める機会をつくっています。 令和7年度は様々な関係者とも連携を深め、ささえあい活動の質を高めていきます。 【就労センター】 就労や社会参加活動等に関する支援を行いました。 ・就労等窓口相談及び職業紹介（通年） 1 月末現在/求職者数 1，356 件、紹介件数延 270 件

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
			大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
				ために、就労相談やセミナーを実施し、就労につなげていくことはもちろんのこと、地域貢献にも興味のある人を含めて幅広く役割づくりを支援します。	・予約制再就職支援セミナー（4回/年） ・予約制面接会「合同・入替 各2回」（4 回/年） ・就労出張相談会（4回/年）	・個別カウンセリング（原則毎水曜日 48 回/年） 1 月末現在/40 回実施 ・予約制再就職支援セミナー（4回/年） 1 月末現在/3 回実施 延 152 人参加・残 1 回 ・予約制面接会「合同・入替 各2回」（4 回/年） 1 月末現在/各 3 回実施 延 158 人参加 ・就労出張相談会（6 回/年）延 28 人参加 令和 7 年度の前記各事業については、当該事業に参加する求職者等の参加を更に促進するため、講師や内容・回数など、実施方法を見直し検討を行い、実施します。
		地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。	取組 4：居場所を提供する団体などを支援し、人が集う機会や役割を増やそう。	・居場所の確保や運営スタッフの確保に困った時には、大田区社協のさまざまなネットワークを駆使し、活動が継続できるように支援します。 ・大田区社協の持つ広報手段を活用し、団体の活動PRを支援します。 ・新たに居場所づくりに取り組みたい団体や個人からの相談に応じ、支援します。 ・さまざまな助成金に関する情報を提供するなど、活動の継続を支援します。	・地域福祉活動団体支援事業やつどいの場支援事業を通じて居場所を運営する団体を支援します。 ・「歳末たすけあい・地域ふれあい募金」を活動団体支援のために活用します。 ・地域福祉コーディネーターによる地域づくり支援の一環として、居場所を必要とする人を居場所につなげるだけでなく、居場所の運営などの活動を、地域で支える働きかけを行います。 ・区内の居場所の情報が必要な人に向けてリストを作成し、SNSを含めたさまざまな手段による情報発信を行います。	【地域共生担当】 ・居場所を必要とする方を居場所につなげるだけでなく、運営に携わったり、役割を持って活動をしたりすることで、社会との接点を増やし、参加支援を推進していきます。年間を通して全ケースの 4 分の1以上で参加支援を実施していきます。 【ボランティア担当】 ・地域共生担当とボランティア担当が連携して、地域福祉活動団体支援事業やつどいの場支援事業を通じた団体支援を行います。（通年） ・「歳末たすけあい・地域ふれあい募金」を活用し、助成を行います（助成金審査委員会を6月下旬に開催予定）。また、助成を受けた団体同士の交流の機会を設けるなど、大田区社協だからこそできる取組を行います。 ・大田区こども食堂連絡会連絡会 「こども食堂連絡会」を年 3 回開催し、団体同士の横のつながりを緩やかにつくりながら、さらにネットワークを充実させていきます。また、こども食堂に寄せられる相談や地域課題などの情報をキャッチし、地域福祉コーディネーターと一体となって運営のサポートを行います。	【地域共生担当】 令和6年度上半期（9 月末）の個別支援ケース 196 件に対して 11 件（6%）を参加支援ケースとして支援を実施しました。個別の相談からお困りごとの解消だけでなく、地域の資源につながり、地域の活動の場に参加し、現在は担い手側として活躍されている方が複数います。 【ボランティア担当】 ・地域福祉活動団体支援事業（通年60・イベント11・トライアル６団体）、「つどいの場」運営支援事業 104 団体（うち助成団体 75 団体）を通して団体支援を行いました。 ・助成団体へ歳末たすけあい運動の街頭募金への協力や「12/15 おおた広がれボランティアのつどい」の案内をし、参加がありました。 令和7年度も、引き続き多様な地域福祉団体の活動への支援（広報や団体運営、ボランティアや参加者の募集など、団体が抱える課題への対応等）を地域福祉 co と連携しながら取り組みます。 **・大田区こども食堂連絡会** 連絡会を年3回（6月、12月、3月）、連絡会に向けたコアメンバー会議を3回実施し、団体主体のネットワーク化を図ってきました。区内の団体数が 60 箇所を超え、立ち上げ支援・継続支援を地域福祉 co と連携して行いました。活動内容が多様化しているなか、令和7年度も引き続きこども食堂運営者と関係機関等が大田区の目指すべきこども食堂について、皆で議論を重ねていきます。

基本目標		5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
				大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
3	身近なところでささえあうまち	ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。	取組 5:地域の中には気軽に相談できる場所(人)がある(いる)ことを知り、ひとりで悩んでいる人がいたらそのことを伝えよう。	・地域の身近な相談窓口である民生委員・児童委員の活動を、住民の皆さんに幅広く知っていただけるよう、大田区社協において周知や支援活動を行います。 ・民生委員・児童委員をはじめ地域の方々から、大田区社協に寄せられた相談を受けとめ、関係機関との調整を行います。 ・困りごとを抱えた人の支援方法について、関係機関などと一緒に考え、チームで支えていかれるような体制づくりを行います。	・地域の人からの困りごとを受けとめ、専門機関につなげます。 ・進学の際の受験費用や塾代など、または学費などについてお困りの人の相談を受け、支援します(受験生チャレンジ支援事業など)。 ・生活の困りごとの相談を受け、支援します(生活福祉資金貸付事業)。 ・地域のイベントに参加する際は地域福祉コーディネーターによる相談ブースを設け、大田区社協の存在と役割を知ってもらえるよう努めます。	【地域共生担当】 ・地域の方からの困りごとを受けとめ専門機関に適切につないでいきます。年間を通して全ケース数の 80%以上を専門機関につないでいきます。 【生活相談担当】 ・低所得者等に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行い、その経済的自立及び生活意欲の助長促進ならびに在宅福祉及び社会参加を図り、安定した生活を送れるよう支援します(通年)。本年度新たに正規職員を配置し(1名増員)、事業推進体制を強化するとともに、相談員の計画的な研修受講等により、相談対応力の強化に努めます。 ・貸付に至らない場合にも、社協内の他部門や自立相談支援機関等他機関と連携を図り、自立に必要な他の制度等につなげるなど、本貸付事業の相談窓口という役割を活用しながら、広く区民の生活課題・福祉課題を受けとめ、解決につながるよう支援します(通年)。	【地域共生担当】 困りごとを抱える方を専門機関につないだ割合は 51%となっています。今後は地域福祉コーディネーターの専門性の向上を図るべく、研修やコンサルテーションの実施や専門機関との相互理解を推進するための場づくりを推進していきます。 【生活相談担当】 ・受験生チャレンジ支援貸付事業では、令和7年1月末日現在、貸付相談件数 2,255 件(貸付決定件数 426 件)、償還免除等相談件数 463 件(償還免除承認件数 499 件)の相談に対応しました。 ・生活福祉資金貸付事業では、令和7年 1 月末日現在、貸付相談件数 2,986 件(貸付決定件数 77 件)、償還等相談件数 935 件の相談に対応しました。 ・本貸付事業の相談者や借受人は、複合的な課題を抱えており、貸付だけでは課題解決に至らない世帯も多く、地域福祉コーディネーターや食料支援、ほほえみごはん事業、就労支援等の社協内の他部署との連携や、生活福祉課や JOBOTA 等関係機関との連携のもと相談支援に取り組みました。 ・令和7年度も、さらなる連携体制の構築に向け、関係機関等との情報共有会議や勉強会等を定期開催し、区民の生活課題・福祉課題解決につながるよう支援します。
		身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	取組 6:ボランティア活動や企業などの地域貢献活動を通じて、地域の中の困りごとを受けとめ、みんなで支えあおう。	・地域の中にある生活課題を、地域全体として受けとめ、それぞれがどのようなことができるかを一緒に考えていきます。 ・一つの団体で解決が難しい課題についても、地域のネットワークを活かしながら、複数の団体や企業などと一緒に解決に向けて取り組めるように、調整を行い	・ボランティア活動を行いたい人の相談に応じ、活動ができるように支援します。 ・気軽にできるボランティア活動(使用済み切手整理など)や地域貢献活動(フードドライブなど)のプログラムをつくっていきます。 ・地域貢献活動を行いたい団体や企業の	【地域共生担当】 ・地域の中にある生活課題を地域課題として受けとめ、地域で共に考える場やネットワークの形成を推進するとともに、社会福祉法人協議会や重層的支援会議など既存のネットワークや会議体を活かして専門職と地域住民等との協働をコーディネートし、生活課題や地域課題の解決にむけて取り組んでいきます。 【ボランティア担当】 ・夏！体験ボランティア事業 「夏！体験ボランティア事業」を実施(8/1～8/31)し、子どもから大人まで多くの区民が身近な地域で様々なボランティア活動を体験し、地域課題を自主的に考える機会をつくります。	【地域共生担当】 地域課題を住民同士で話し合う場をつくるプラットフォーム事業の拡充・継続をしています。また、社会福祉法人協議会と連携した居場所・イベントを実施しました(3地区)。 重層的支援会議のケースから、地域支援に展開を図っている事例があり、今後取り組んでいきます。 【ボランティア担当】 **・夏！体験ボランティア事業** 区内の文化施設とも連携して新たなプログラムを充実させ、163 名(延べ 261 名)の区民がボランティア活動に参加されました。 令和7年度もプログラムを充実させ、多様な活動と出会いの機会をつくります。

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
			大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
			ます。	相談に応じ、活動を支援していきます。 ・地域貢献活動を行う団体や企業について幅広く周知し、さらに地域貢献活動が広がるよう、周知や啓発に取り組みます。	・おおたフード支援ネットワーク事業 大田区社会福祉法人協議会調布エリア、大森エリアと協働し、フードパントリーイベントを開催することで、「食」の支援から相談支援へつなげるしくみを作ります。（調布エリア：2回開催予定、大森エリア：1回開催予定）。また、大田区、大田区社協、虹の架け橋プロジェクト、フードバンク大田等のメンバーによる「おおたフード支援ネットワーク会議」を定期的に開催し、食料品を必要な人へ円滑かつ継続的に提供するためのしくみを作ります。 ・企業の地域貢献活動推進事業 大田区内の企業が社会貢献活動について、情報交換をしたり、協働して地域の福祉課題の解決について話しあいをしたりする場として「おおた企業ボランティア連絡会」を立ち上げます。 ・ボランティア活動推進事業 新たに「おおたボランティアフォーラム（仮称）」を開催します。（令和6年秋） ・新規ボランティア活動プログラム「新聞紙（古紙）エコバックづくりボランティア」を試験的に（パイロット事業として）取り組みます（月1回開催）。	**・おおたフード支援ネットワーク事業** 調布地区の地域包括支援センター5カ所で常設型フードドライブが始まりました。これによって、地域包括支援センターから調布地区のこども食堂への食料品の引渡しという流れができ、専門機関と地域団体のつながりが広がりました。大田区社会福祉法人協議会調布エリアにて、食料品の配布とカフェスペースで身近な相談を聞くというフードパントリーイベントを開催しました。（8月、・12月）大田区社会福祉法人協議会大森エリアで開催された「こころ彩るほくほく祭り in 大森」のイベントに、フードパントリーコーナーを設置しました。（10月） 令和7年度は企業の地域貢献活動（CSR）の一環としてフードドライブを実施する企業を増やし、フード支援を通じたネットワークを拡充していきます。 **・企業の地域貢献活動推進事業** CSR活動の新規相談は12社、CSR活動の新規支援は7社でした。「おおた企業ボランティア連絡会」の立ち上げには到っていませんが、大田区社協とつながる企業は少しずつ増えています。令和7年度は、このつながりをさらに拡充していきます。 **・ボランティア活動推進事業** 地域のネットワークづくりのきっかけとなるボランティア活動への参加意識啓発のため、新たに「おおた広がれボランティアのつどい2024」を開催し、160 名の参加がありました。（12月）令和7年度も年一回の開催を予定し、ボランティア活動について幅広く周知します。 ・机に座ったままで気軽に参加できるボランティア活動、SDGs へつながるボランティア活動として新しく「新聞紙（古紙）エコバックづくりボランティア」を毎月開催しました。完成した新聞紙エコバックは、こども食堂にお渡し、お菓子などを入れてこどもたちへお渡しする流れができました。 令和7年度は、夏ボラのメニューにも追加し、活動の輪を広げていきます。

基本目標		5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
				大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
4	お互いを認めあい誰もが自分らしく暮らせるまち	一人ひとりの生き方を理解し合っている。	取組 7:地域で暮らすさまざまな人たちへの理解を深めるために福祉学習に参加しよう。	・教育現場における福祉学習にとどまらず、地域共生社会の実現に向けて、世代や分野を超えた幅広い視点において、多様性の理解を深める機会を作ります。 ・さまざまな団体で実施している学習会などを広く周知し、多くの人が参加できるようにします。	・福祉学習の進め方やプログラムの内容などについてアドバイスし、スムースに実施できるよう支援します。 ・福祉学習の実施に必要となる、講師の紹介や協力団体とのマッチング、物品の貸し出し（福祉体験用具など）を行います。 ・地域で暮らす外国人の支援について、身近な地域の中で話しあう場をつくります。 ・未来を担う小・中・高校生や若者への福祉教育を推進し、障害者をはじめ多様な人たちへの理解が深まるよう支援します。	【ボランティア担当】 ・夏！体験ボランティア事業 区内の関係機関・地域活動団体と連携して「夏！体験ボランティア事業」（8/1～8/31）を実施し、多くの小中高生に参加いただけるよう支援します。 ・福祉学習 新たにチームを作って、現在の取り組み・今年度のスケジュールを確認します。また、講師の紹介をしやすいようにメニュー表を作成していきます。これらに加え、今年度はいくつかの団体と繋がりを作っていきます。 【地域共生担当】 ・ボランティア担当と連携し、学校・福祉関係者・地域住民等による福祉ニーズ等について話し合うための場を設定します。ここで、小中学生等に向けた、外国人や障害者なども含めた全ての方が暮らしやすい地域について、自分ごととして考えられるようなプログラムを検討し、福祉教育が地域密着で展開できるよう検討していきます。	【ボランティア担当】 **・夏！体験ボランティア事業** 教育機関や若者サポートセンター、学習支援団体とも連携しながら広報を強化し、小学生～大学生まで計134名の方に参加いただきました。 令和7年度も教育機関との連携を継続し、オリエンテーションを充実させ、豊かな体験と学びの機会を創出します。 **・福祉学習** 新たに地域共生担当と共にチームを作り、年度初めに、取り組みの現状と今年度のスケジュールを確認しました。福祉体験学習の支援を8回実施（小学校7回、中学校1回）する中で、いくつかの団体とつながり、地域住民、福祉の専門職とともに福祉教育プログラムを実施しました。メニュー表の作成については、現在、作成途中です。 引き続き学校を中心とした実践を広げ、大田区における福祉教育の理念を確立できるよう、しくみを作ります。 【地域共生担当】 ボランティア担当と連携し、担当職員を配置して福祉学習に取り組みました。今年度はひとつの学校と地域住民等と連携し、福祉教育のプログラムを実施しました。引き続きボランティア担当と共に学校を中心とした実践を広げ、大田区における福祉教育の理念を確立できるよう、しくみを作ります。

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
			大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
	判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	取組 8:障害や認知症などの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるよう、権利擁護の推進をはじめとした支援について理解しよう。	・地域で暮らす方々が、自分らしい生活を継続するために、複雑な困りごとを抱えていても、地域の中でサポートできる連携ネットワークをつくります。 ・権利擁護の研修や事例検討会などを通して、関係機関との顔の見える関係をつくり、チーム支援をしやすい体制づくりを行います。 ・「親なきあと」の取組について、親の不安や悩みに寄り添いながら、老いじたく講演会や親なきあと講演会などを一緒に企画します。 ・市民後見人や地域で意思決定支援に携われる人材の育成や支援に取り組みます。	・成年後見制度推進機関として、障害や認知症により権利が損なわれないよう成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知啓発を行い、関係機関と連携して制度の利用に関する相談支援を行います。 ・福祉法律相談など住民の権利が守られるよう法律の専門家に気軽に相談できる場をつくります。 ・[地域版]老いじたくセミナーなど、専門職団体や行政機関と共同して、権利を守るための研修会を実施します。 ・中核機関として権利擁護支援検討会議を開催し、個々のケースに応じた支援が実施できるよう、各機関・福祉事業者が専門家からのアドバイスを得られる機会をつくります。 ・親族後見人の悩みなどを共有しながら、後見人としての活動をサポートします。 ・民生委員・児童委員協議会や自治会・町会などの集まりなど、地域の身近な場において、老いじた	【おおた成年後見センター】 ・5 月末、各特別出張所と包括支援センター職員向けに、地域版老いじたくセミナー説明会を開催します。老いじたく推進事業の必要性への理解を図り、7 月から 2 月までに6地区で実施する予定です。 ・親なきあとや親自身の老いじたくについて、障害者の親の会をはじめ、障害者施設やさぽーとぴあ、地域包括支援センターと連携し講演会を実施予定です。 ・市民後見人の育成や活動の場の確保等において、ぱあとなあ東京との意見交換会を 6 月に開催し、お互いの強みを活かした取り組みを模索します。また、すでに携わっている専門職を対象に「市民後見人サポート連絡会」を開催し、情報共有を図るとともに支援の標準化を図ります。	【おおた成年後見センター】 **・老いじたくの推進** 5 月 28 日、各特別出張所と包括支援センター職員向けに、地域版老いじたくセミナー説明会を開催し、老いじたくへの共通理解を図りました。 また、区民向けに、老いじたくセミナー(6地区)と 10 月 25 日に老いじたく講演会を開催し、老いじたくの必要性の理解と始めるきっかけとなるよう取り組み、延べ345名の参加がありました。 老いじたくへの関心はますます高まっており、より分かり易い内容となるよう、詳細版のパンフレット改訂をすすめています。 **・親なきあと講演会** 11 月 5 日、障害児者親の会、11 月 15 日、区内福祉施設と地域包括支援センター並びに社協三者が連携し、保護者向けに講演会を開催しました。3 月にも区内福祉施設利用者の保護者向けに実施予定です。 令和 7 年度も、区内障害施設等へ広く呼びかけ、親なきあとと親自身の備えにつなげていきます。 **・市民後見人活躍支援等** 令和 6 年度は、専門職が受任しているケースから市民後見人へのリレー実績は2件(他準備中 1 件)です。 市民後見人サポート連絡会では、専門職各々のサポート内容や課題等の共有を図り、一定のサポートがなされるよう、意見交換等を行いました。 また、市民後見人とぱあとなあ東京との意見交換の場を設定し、顔の見える関係づくりに取り組みました。 令和 7 年度は、市民後見人養成講習(基礎講習)のあり方を見直し、「地域共生社会の実現に向けた意思決定支援」について広く区民に関心を持っていただくために周知啓発の機会を拡充します。 **・出前講座** 地域包括支援センター8 地区、地域福祉課3件、その他地域団体等 11 件の依頼に応じ、老いじたくの推進や成年後見制度等の正しい理

基本目標	5 年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組	令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性
			大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
				くや成年後見制度についての出前講座を行います。		解につながるよう取り組みました。 令和 7 年度も、各関係機関と連携していきます。

資　料　4-1

第７次大田区地域福祉活動計画の評価項目と評価指標（案）について

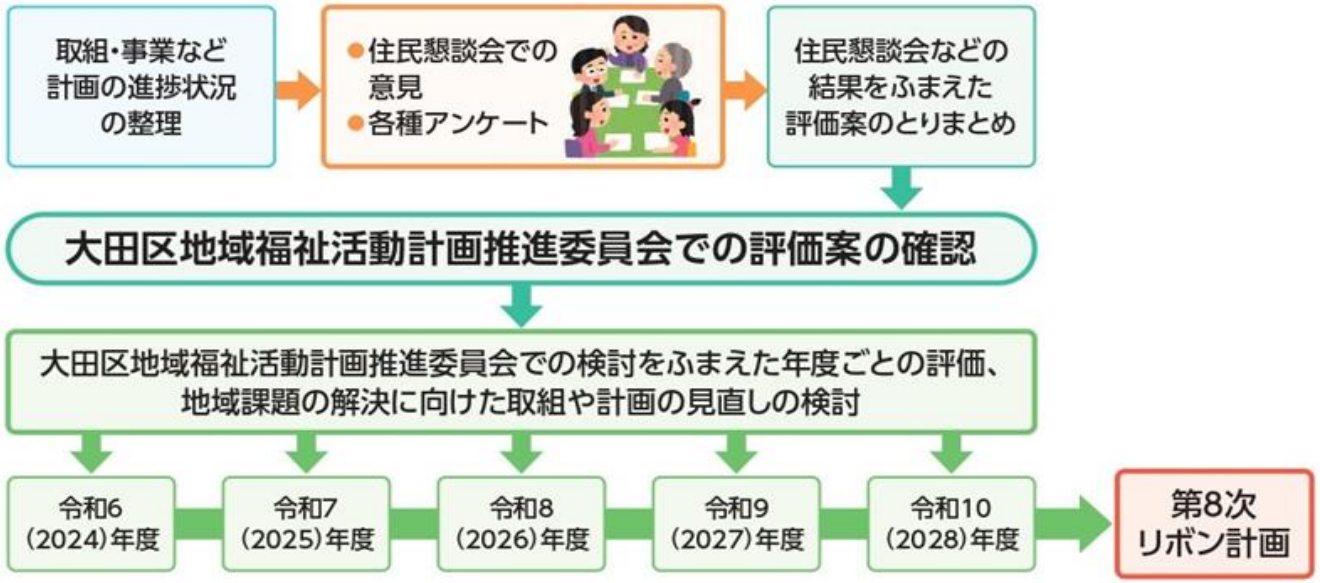
～目指す「５年後の地域の姿」に近づくために～

１．計画の評価と進行管理

この計画の評価にあたっては、計画期間中、毎年度実施する住民懇談会の中で、参加者より意見をいただくほか、大田区社協が実施する各種事業でのアンケートの結果を活用します。

また、住民懇談会での意見をふまえた計画の進行管理、地域課題の解決に向けた取組や計画の見直しの検討は、「大田区地域福祉活動計画推進委員会」にて行います。

【計画の評価と進行管理の流れ】



◎大田区地域福祉活動計画推進委員会での評価案の確認と評価について

（令和６年度）

委員会にて評価項目や評価指標案を確認し、**評価の方向性を決定**します。

（令和７年度～）

令和６年度に設定した評価の方向性に基づいた**評価を委員会にて行い**、**進行度合の確認**、**更なる取組が必要な部分**についての協議などを実施します。

２．令和６年度の計画進行管理の流れ

（５月)委員会開催

（７月～２月）共通アンケート実施

（７月）住民懇談会開催

（２月）委員会開催（評価指標の決定）

3.評価指標（案）について

- 評価指標（案）を作成するにあたり、つぎの取組を行いました。

（１）住民懇談会や大田区社協が実施する事業での共通アンケートによる意見収集

（２）各種基本データからの取組状況の把握

（１）住民懇談会や大田区社協が実施する事業での共通アンケートによる意見収集（住民等の主観的な視点から計画の進捗状況を把握する）

①住民懇談会での意見収集

７月末から８月初頭にかけて区内４地域で開催しました。

『「みんなでつくる　共につながりあう　まち」の実現に向けて私だからこそできること・仲間と一緒ならできることを考えよう』というタイトルのもと

「つながりづくり」「居場所づくり」「支えあい」「自分らしく生きる」という４つの小テーマを設定してグループに分かれての意見交換を行い、全体で474件のご意見をいただきました。

②大田区社協が実施する事業での共通アンケートの実施

- この計画で目指している「**５年後の地域の姿**」に対し、現状はどのくらいできている、またはできていないと感じるかを５段階で選んでもらいました。また、自由意見欄も設けました。
- 共通アンケートには住民懇談会の参加者をはじめおおた広がれボランティアのつどいや地域福祉フォーラムの参加者、歳末たすけあい・地域ふれあい募金で行った駅頭での街頭募金活動に協力してくださった方（地域活動団体等に呼びかけして実施）、おおた成年後見センターの生活支援員や市民後見人に協力してもらい、310件の回答を得ることができました。

地域の状況についてお聞かせください

2024年3月に策定した「第7次大田区地域福祉活動計画」では、様々な取組を進めながら、目指していく「5年後の地域の姿」を掲げました。「5年後の地域の姿」について、みなさまが日々の暮らしの中で感じている現在の地域の状況をお聞かせください。

目指す5年後の地域の姿	現在の地域の状況（それぞれ1つに〇）				
	できていない	←		→	できている
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	1	2	3	4	5
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	1	2	3	4	5
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	1	2	3	4	5
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	1	2	3	4	5
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。	1	2	3	4	5
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	1	2	3	4	5
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	1	2	3	4	5
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	1	2	3	4	5

「1. できていない」または「5. できている」を1つでも選んだ方は、その理由をお聞かせください。

「1. できていない」を選んだ理由	「5. できている」を選んだ理由

その他にご意見やご感想等ございましたら、ご自由にご記入ください

（２）各種基本データからの取組状況の把握

- 計画の基本目標1～４に関連した大田区社協の各種事業の取組状況を各種基本データから把握し、評価指標を考える上での参考としました。

（例）

①災害ボランティアに関する講座・訓練等の参加者数や開催回数

②地域福祉コーディネーターの活動件数

③権利擁護に関する出前講座の参加者数・派遣回数

④住民懇談会の参加者数　　等

3.評価指標案の取りまとめ

(1)(2)の結果をふまえ、**事務局にて評価指標となり得る項目を整理しました（資料4-2参照）**。

（例）

①イベント等の開催回数

②参加者の増減

③新規の活動につながったかどうか　他

4.今後の計画の評価・進行管理の方法について

①住民懇談会での意見聴取した内容
②共通アンケートの結果
③評価指標による分析
④「大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと」「大田区社会福祉協議会だからことできること」に関連する事業の進捗状況

これらを総合的に判断しての評価・進行管理となります。

３．令和７年度からの計画進行管理と評価の流れ

01

（５月）委員会開催（前年度の評価実施と進行管理）

02

（６月～１月）共通アンケート実施

03

（７月）住民懇談会開催

04

（２月）委員会開催（令和7年度の進捗状況確認）

資料4-2

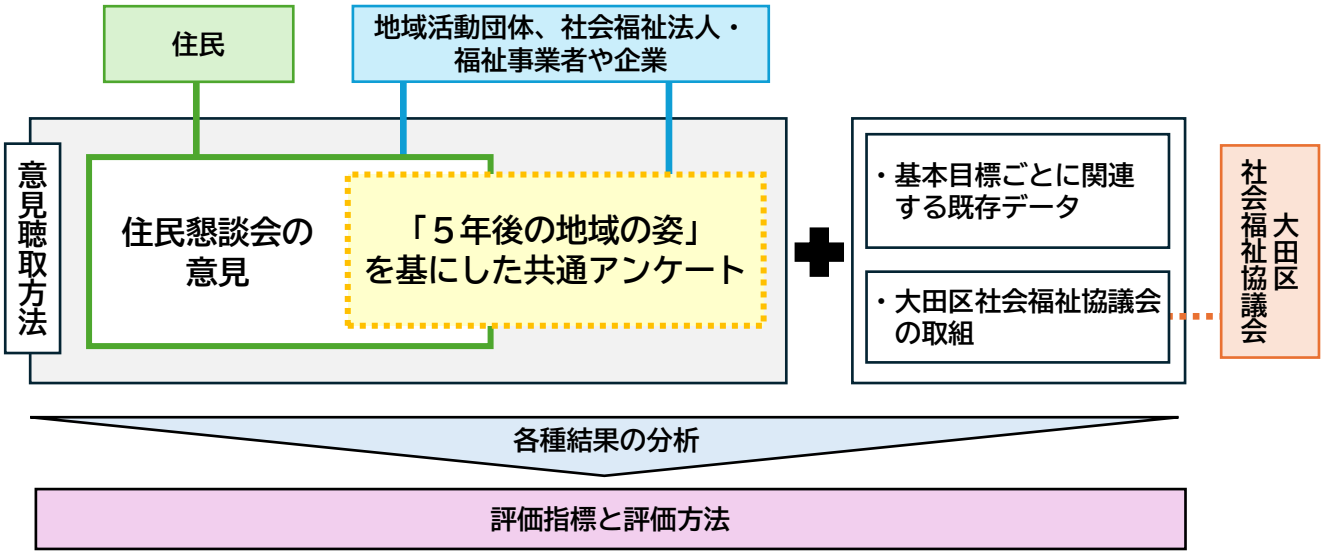
第7次大田区地域福祉活動計画（第7次リボン計画）の評価指標（案）の検討について

1．評価方法の検討の目的

第7次リボン計画の評価と進捗管理では、計画期間中、毎年度、住民懇談会を開催し、参加者の皆様より計画の進捗状況に対して意見をいただくほか、大田区社協が実施する講演会、イベントや各種事業の参加者アンケートなどの結果を、積極的に活用し、評価としてまとめるとしている。

その評価指標を検討するために、2024年7月末から8月にかけて実施した「住民懇談会の意見」の集約、また住民懇談会の参加者や社協事業関係者や社会福祉法人に対して実施した「「5年後の地域の姿」を基にした共通アンケート」の結果の分析のほか、「基本目標ごとに関連する既存データ」や「大田区社会福祉協議会の取組」も参考にして検討を行った。

【評価方法の検討の流れ】



２．住民懇談会・共通アンケートの結果等から見えてきたこと

【2024年度住民懇談会の結果】

（１）2024年度住民懇談会の実施概要

2024年度の住民懇談会は、7月末から8月初頭にかけて区内4地域で開催し、61人参加があった。「『みんなでつくる　共につながりあう　まち』の実現に向けて私だからこそできること・仲間と一緒ならできることを考えよう」を話し合いのテーマに意見交換を行い、合計474件の意見が出された。

地域別にみると、大森地域が201件で最も多く意見が出され、次いで蒲田地域が134件、調布地域が100件、糀谷・羽田が39件と続いている。

	7月29日 糀谷・羽田地域	7月30日 調布地域	7月31日 大森地域	8月1日 蒲田地域	合計
参加者（人）	5	11	24	21	61
意見（件）	39	100	201	134	474

（２）小テーマ（リボン計画の基本目標）ごとの件数

意見交換にあたっては、話し合いのテーマに対して、第7次大田区地域福祉活動計画（リボン計画）の基本目標をもとにした4つの小テーマ（つながりづくり、居場所づくり、支えあい、自分らしく生きる）を設定し、小テーマごとに意見をいただいた。

小テーマ別にみると、意見の件数が多い順に「つながりづくり（163件）」と「居場所づくり（162件）」、「支えあい（82件）」、「自分らしく生きる（67件）」となった。

また、いただいた意見については、41の小分類に整理し、さらに意見内容が近い小分類を13の大分類へと整理した。大分類の上位5項目をみると、全体の第1位、第2位である「交流・関係づくり」、「活動・参加」は、どの小テーマにおいても上位5位までに見られた。

（単位：件）

	全体	つながりづくり	居場所づくり	支えあい	自分らしく生きる
意見数	474	163 （34.4%）	162 （34.2%）	82 （17.3%）	67 （14.1）
大分類 第1位	交流・関係づくり 150	交流・関係づくり 80	交流・関係づくり 40	人材・担い手 11	交流・関係づくり 20
大分類 第2位	活動・参加 66	活動・参加 21	拠点・居場所 39	相談・支援 11	活動・参加 12
大分類 第3位	拠点・居場所 54	情報 16	子ども・子育て 25	交流・関係づくり 10	共生・多様性 7
大分類 第4位	子ども・子育て 41	共生・多様性 8	活動・参加 24	活動・参加 9	情報 5
大分類 第5位	情報 33	子ども・子育て 8	共生・多様性 10	拠点・居場所 7	拠点・居場所 4

（３）住民懇談会の意見のまとめ

4つの小テーマごとの意見のまとめは、次の通りである。

【つながりづくり】

身近なところからできる「あいさつ・声かけ」の意見が最も多く出たが、「つながりづくり」では、子どもや高齢者、男性など特定の人を対象とした意見、イベントや活動といった機会を活用する意見、共通の趣味やテーマによる交流の意見が見られた。

また、課題として、マンション住民と地域のつながりや地域情報の周知・発信についての意見が見られた。

- 特定の対象、機会、テーマによる「つながりづくり」のニーズがある。
- つながりをつくりづらい住民・コミュニティとの関係構築に課題がある。
- 地域の情報が十分に伝わっていない状況がある。

【居場所づくり】

「居場所」については、「男性の居場所」についての意見が最も多く、誰でも集まれる「集いの場」の意見が見られたほか、居場所の情報に対する意見も見られた。

交流や活動の拠点や場については、既存施設の貸出や活用など場の確保、特徴、助成金といった制度面での意見が見られた。

また、子どもに関わる意見として、子ども食堂の拡充・活用、外国籍の子ども・世帯への支援についての意見が見られた。

- 男性の居場所や誰もが集える場のニーズがある。
- 地域の居場所の情報が不足している。
- 交流や活動の拠点や場の確保・開拓が求められている。
- 子ども食堂、外国籍の子どもなど子どもへの支援活動の意見は多い。

【支えあい】

地域の見守り・支えあい・ボランティアに関わる「人材・担い手」の不足や育成についての意見が多く、災害時の支えあいについても意見が出されている。

また、福祉的な支援を必要としている人が増えている意見に加え、支援につなげるための相談や相談機関との連携、その情報についての意見が見られた。

- 地域の支えあいの「人材・担い手」は依然として不足している。
- 相談や支援について地域と情報共有を深める必要がある。

【自分らしく生きる】

自分らしく生きていくために、人とのつながりや自身のスキルを生かした活動・生きがいづくりの必要性のほか、他者の尊重、福祉的な支援の制度・仕組みについての意見も見られた。

- 人とのつながり・交流の重要性が挙がっている。
- 自身のスキルを活かせる機会の創出、生きがいづくりの必要性が挙がっている。
- 自分らしく生きられる環境や制度・仕組みの意見が出ている。

【「５年後の地域の姿」を基にした共通アンケートの結果】

（１）共通アンケートの概要

評価指標の検討にあたり、前述の「2024年度 住民懇談会」の参加者、令和6年12月に開催した「おおた広がれボランティアのつどい2024（以下、ボランティアのつどい）」の参加者、令和7年2月に開催した「地域福祉フォーラム」の参加者、「2024年 歳末助け合い募金」活動の協力者（以下、募金活動協力者）、おおた成年後見センターの「生活支援員・市民後見人」に対して、第7次リボン計画で掲げた「5年後の地域の姿」について5段階で現在の状況をたずねた。

【共通アンケートの回答状況】

	全体	住民懇談会	ボランティアのつどい	地域福祉フォーラム	歳末助け合い募金	生活支援員・市民後見人
回答者数	310	61	68	82	79	20

（２）「５年後の地域の姿」を基にした共通アンケートの結果

全体結果と調査対象ごとの比較結果は、次の通りとなっている。

【基本目標１に紐づく「５年後の地域の姿」の結果：(1)（2)】

(1) ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。

全体結果を見ると、＜現状できている（36.8％）＞の割合が、＜現状できていない（23.2％）＞の割合を13.6ポイント上回っている。

対象ごとの結果を比較すると、いずれも＜現状できている＞の割合が、＜現状できていない＞の割合を上回っている。

(2) 地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。

全体結果を見ると、＜現状できていない（35.8％）＞の割合が、＜現状できている（20.0％）＞の割合を15.8ポイント上回っている。

対象ごとの結果を比較すると、地域福祉フォーラム参加者以外は、＜現状できていない＞の割合が高くなっている。

【基本目標２に紐づく「５年後の地域の姿」の結果：(3)（4)】

(3) 地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。

全体結果を見ると、「どちらともいえない（37.4％）」の割合が最も高いが、＜現状できている（34.2％）＞の割合が、＜現状できていない（19.4％）＞の割合を14.8ポイント上回っている。

対象ごとの結果を比較すると、ボランティアのつどい参加者以外は、＜現状できている＞の割合が高くなっている。

(4) 地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。

全体結果を見ると、＜現状できている（33.9％）＞の割合が最も高くなっている。

対象ごとの結果を比較すると、地域福祉フォーラム参加者、募金活動協力者は、＜現状できている＞の割合が＜現状できていない＞の割合を大きく上回っているが、住民懇談会参加者、ボランティアのつどいの参加者は、＜現状できていない＞の割合が＜現状できている＞の割合を上回っており、対象によって意識の違いがみられた。

【基本目標３に紐づく「５年後の地域の姿」の結果：(5)（6)】

(5) ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。

全体結果を見ると、＜現状できている(42.3%)＞の割合が、＜現状できていない(17.1%)＞の割合を25.2ポイント上回っている。

対象ごとの結果を比較すると、ボランティアのつどい参加者以外は、＜現状できている＞の割合が最も高くなっている。

(6) 身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。

全体結果を見ると、「どちらともいえない(37.1%)」が最も高くなっている。

対象ごとの結果を比較すると、住民懇談会参加者、地域福祉フォーラム参加者、募金活動協力者は、＜現状できている＞の割合が、ボランティアのつどい参加者は＜現状できていない＞の割合がやや高くなっている。

【基本目標４に紐づく「５年後の地域の姿」の結果：(7)（8)】

(7) 一人ひとりの生き方を理解しあっている。

全体結果を見ると、「どちらともいえない(41.0%)」が最も高くなっている。

対象ごとの結果を比較すると、いずれの対象も「どちらともいえない」の割合が最も高いが、住民懇談会参加者、ボランティアのつどい参加者は、＜現状できていない＞の割合もやや高くなっている。

(8) 判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。

全体結果を見ると、「どちらともいえない(42.3%)」が最も高くなっている。

対象ごとの結果を比較すると、住民懇談会参加者以外は、「どちらともいえない」の割合が最も高く、住民懇談会参加者は＜現状できていない(41.0%)＞の割合が最も高くなっている。

次ページ以降の回答結果表における「加重平均(加重算術平均)」について

加重平均(加重算術平均)とは、値ごとに設定された重み(ウェイト)を考慮し、平均を求める手法です。算術平均(合計値を個数で割る)とは異なり、値に重みを掛けて合計し、重みの合計で割り、平均を求めます。

今回の共通アンケートでは、5段階評価なので次のような計算式で値を求めています。

加重平均＝((5の個数×5)＋(4の個数×4)＋･･･＋(1の個数×1))
÷（5の個数＋4の個数＋････＋1の個数）

（3）回答結果

「５年後の地域の姿」の現状＜各対象の合計＞

単位：%, 点

全体（N＝310）	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	36.8	32.6	23.2	7.4	3.19
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	20.0	36.8	35.8	7.4	2.75
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	34.2	37.4	19.4	9.0	3.22
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。	33.9	33.2	25.8	7.1	3.11
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。	42.3	33.9	17.1	6.8	3.40
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	29.7	37.1	25.2	8.1	3.05
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	25.2	41.0	26.1	7.7	3.01
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	21.0	42.3	27.1	9.7	2.91

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。
※表中の太字の数値は、＜現状できている＞または＜現状できていない＞よりも10.0ポイント以上高いもの。

「５年後の地域の姿」の現状＜住民懇談会＞

単位：%, 点

全体（N＝61）	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	34.4	26.2	31.1	8.2	3.09
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	19.7	19.7	52.5	8.2	2.52
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	41.0	26.2	24.6	8.2	3.27
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。	32.8	21.3	39.3	6.6	2.89
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。	39.3	27.9	26.2	6.6	3.30
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	34.4	23.0	36.1	6.6	2.93
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	27.9	34.4	31.1	6.6	3.02
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	21.3	27.9	41.0	9.8	2.72

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。
※表中の太字の数値は、＜現状できている＞または＜現状できていない＞よりも10.0ポイント以上高いもの。

「５年後の地域の姿」の現状＜ボランティアのつどい＞

単位:%, 点

全体(N＝68)	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重 平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	36.8	30.9	26.5	5.9	3.13
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	13.2	35.3	45.6	5.9	2.47
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	26.5	35.3	30.9	7.4	2.89
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	23.5	33.8	36.8	5.9	2.86
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。	26.5	44.1	23.5	5.9	3.06
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	16.2	41.2	35.3	7.4	2.68
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	14.7	42.6	35.3	7.4	2.75
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	11.8	50.0	27.9	10.3	2.75

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。
※表中の太字の数値は、＜現状できている＞または＜現状できていない＞よりも10.0ポイント以上高いもの。

「５年後の地域の姿」の現状＜地域福祉フォーラム＞

単位:%, 点

全体(N＝82)	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重 平均
(1)ちょっとした声かけなど、 気軽に「つながり」をつくっている。	37.8	40.2	17.1	4.9	3.27
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	29.3	43.9	20.7	6.1	3.08
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	34.1	45.1	13.4	7.3	3.30
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	45.1	31.7	18.3	4.9	3.33
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。	51.2	32.9	11.0	4.9	3.60
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	31.7	42.7	19.5	6.1	3.21
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	26.8	41.5	25.6	6.1	3.03
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	22.0	46.3	24.4	7.3	2.95

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。
※表中の太字の数値は、＜現状できている＞または＜現状できていない＞よりも10.0ポイント以上高いもの。

「５年後の地域の姿」の現状＜「2024年歳末助け合い募金」の活動協力者＞

単位：%, 点

全体（N＝79）	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重 平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	36.7	32.9	17.7	12.7	3.29
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	19.0	39.2	30.4	11.4	2.84
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	35.4	40.5	10.1	13.9	3.43
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。	35.4	38.0	13.9	12.7	3.33
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。	48.1	30.4	11.4	10.1	3.55
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	36.7	35.4	15.2	12.7	3.29
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	30.4	41.8	15.2	12.7	3.22
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	27.8	41.8	17.7	12.7	3.13

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。
※表中の太字の数値は、＜現状できている＞または＜現状できていない＞よりも10.0ポイント以上高いもの。

「５年後の地域の姿」の現状＜生活支援員・市民後見人＞

単位：%, 点

全体（N＝20）	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重 平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	40.0	25.0	35.0	0.0	3.05
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	10.0	55.0	35.0	0.0	2.70
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	35.0	35.0	25.0	5.0	3.16
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。	20.0	55.0	25.0	0.0	2.95
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。	45.0	35.0	15.0	5.0	3.47
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	25.0	50.0	20.0	5.0	3.11
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	25.0	50.0	25.0	0.0	3.00
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	20.0	45.0	30.0	5.0	2.95

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。
※表中の太字の数値は、＜現状できている＞または＜現状できていない＞よりも10.0ポイント以上高いもの。

３．第７次大田区地域福祉活動計画の取組の状況

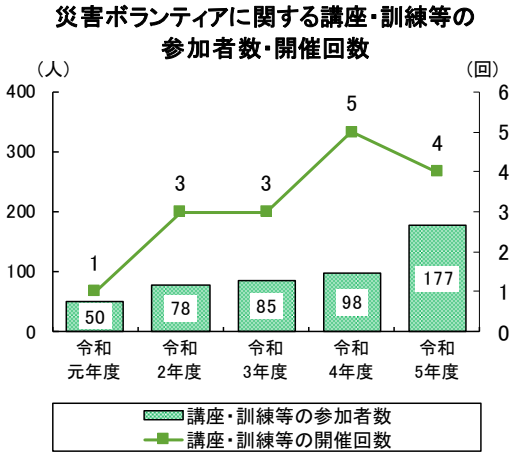
（１）各種現状データ

① 基本目標1に関連するデータ

【災害ボランティアに関する講座・訓練等の参加者数・開催回数】

✧災害ボランティアに関する講座や災害ボランティアセンターの運営訓練などへの参加者は、年々増加しており、令和5年度は177人が参加している。

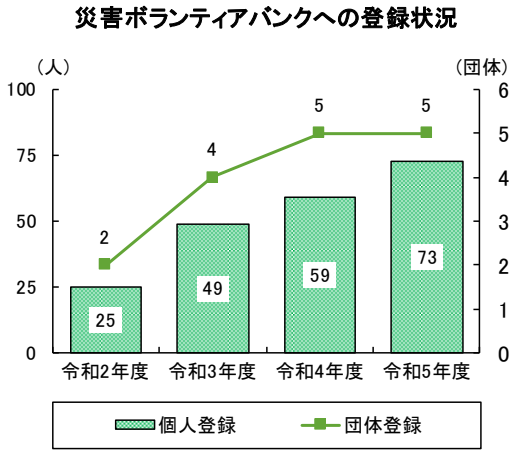
✧講座や訓練等の開催回数は、平成31年3月に締結した大田区、地域パートナーシップ支援センター、大田区社協の三者協定に基づく、令和元年度の災害ボランティアセンターの運営訓練の実施以降、開催回数を増やしている。



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

【災害ボランティアバンクの登録状況】

✧災害ボランティアバンクへの登録状況は、個人、団体ともに増加傾向にあり、令和5年度は個人登録が73人、団体登録が5団体となっている。

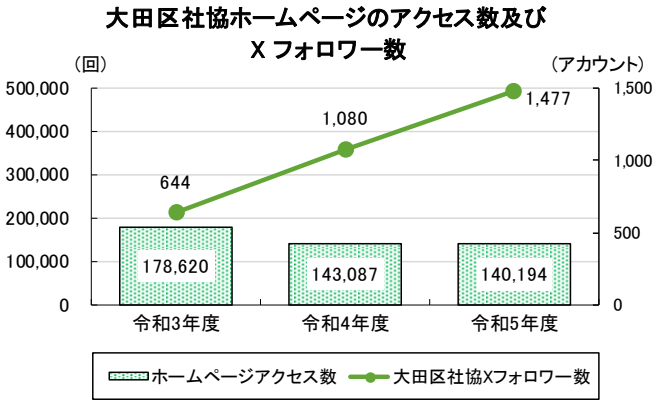


出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

【大田区社協Xフォロワー数】

✧大田区社協ホームページへの年間アクセス数は、新型コロナウイルス感染症を受けた特別貸付等により令和3年度は178,620回となっていたが、以降、徐々に減少し、令和5年度は140,194回となっている。

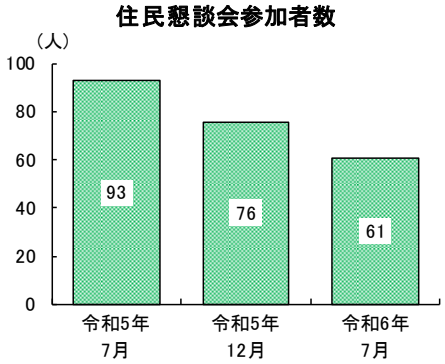
✧大田区社協のX（旧Twitter）アカウントのフォロワー数は、令和5年度は1,477アカウントとなっている。



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告書より

【住民懇談会の参加者数】

✧第7次リボン計画の策定に向けて令和5年度に初めて実施した住民懇談会は、初回の令和5年7月の回以降、参加者数は減少傾向にある。



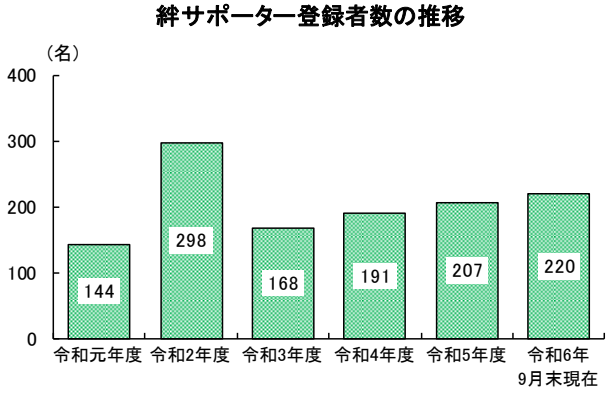
出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

② 基本目標2に関連するデータ

【絆サポーターの登録者数】

✧令和2年度より介護保険制度で定められている介護予防・生活支援サービス事業（訪問型）と、従来から実施している有償家事サービス（虹のサポート・産前産後家事援助サービス等）を融合して、「絆サポート」として再編している。

✧「絆サポート」に関わる「絆サポーター」の登録者数は、令和2年度の再編以降は増加傾向にあり、令和6年9月末現在は220人となっている。

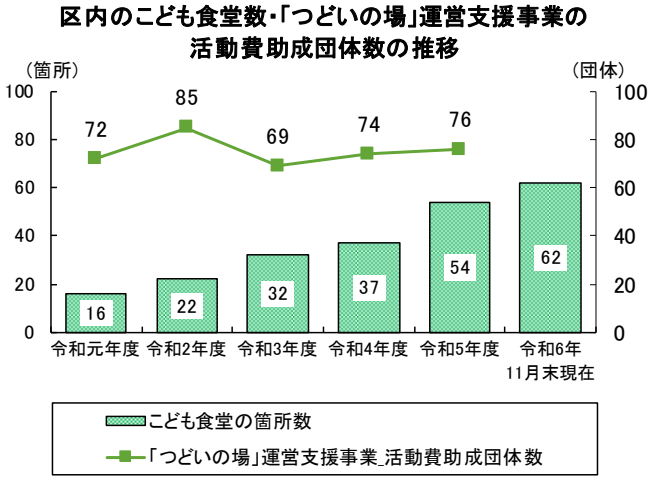


出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

【区内のこども食堂数・「つどいの場」運営支援事業の活動費助成団体数】

✧区内のこども食堂数は増加傾向にあり、令和6年11月末現在で62箇所となっており、令和元年度の16箇所から3.8倍増となっている。

✧区内のサロン活動や居場所活動、こども食堂などの「つどいの場」への運営に関する助言や活動費の助成、活動中のケガ等の補償制度への加入等の活動のサポートを行う「つどいの場」運営支援事業において、活動費助成を行う団体数は、70団体前後で推移している。



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

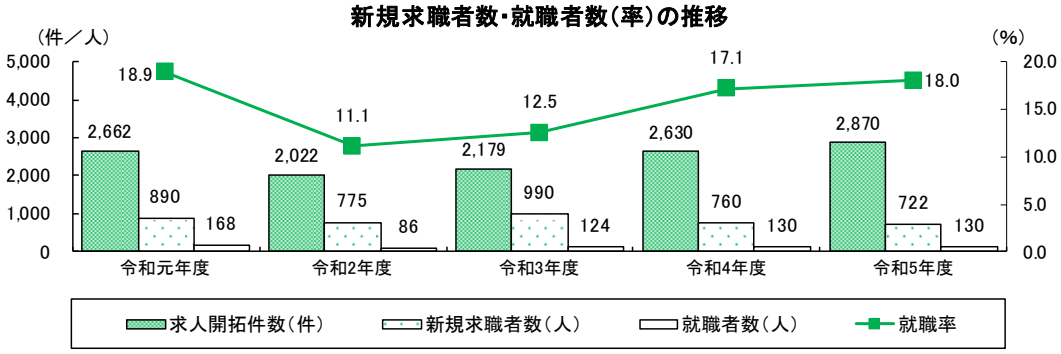
【大田区いきいきしごとステーションにおける各種データ】

✧無料職業紹介事業における求人開拓件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に減少が見られたが、以降、件数は増加し、令和5年度は2,870件まで回復している。

✧また、無料職業紹介事業における就職率もコロナ禍で落ち込んだものの、令和5年度は18.0%とコロナ禍前の水準近くまで回復している。

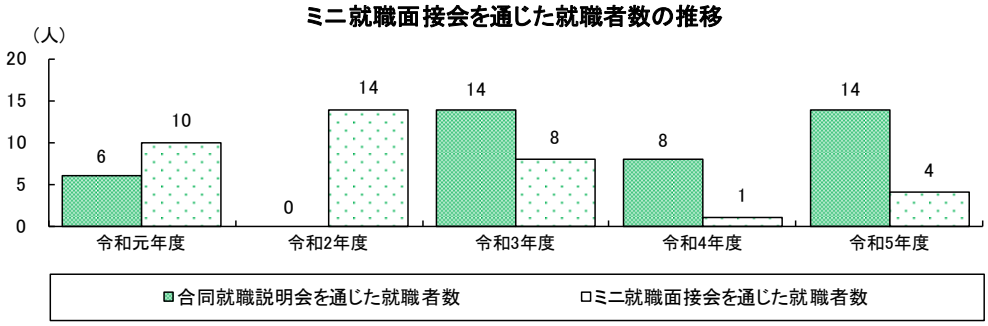
✧合同就職説明会、ミニ就職面接会を通じた就職者数は、令和5年度は計18名となっている。

無料職業紹介事業における求人開拓件数及び、新規求職者数・就職者数(率)の推移



出典:大田区社会福祉協議会 事業報告

就業促進事業における合同就職説明会及び、ミニ就職面接会を通じた就職者数の推移



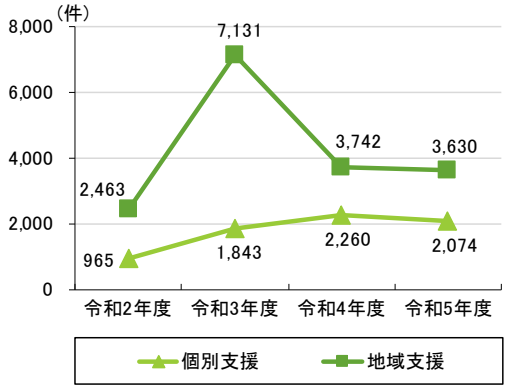
※ 令和2年度の合同就職説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止。
出典:大田区社会福祉協議会 事業報告

③ 基本目標3に関連するデータ

【地域福祉コーディネーターの活動件数】

✧令和5年度の地域福祉コーディネーターの活動件数は、生活課題を抱える住民の相談支援・他機関へのつなぎを行う個別支援では2,074件、地域の様々な主体をつなぎ、活動のサポートを行う地域支援では3,630件となっている。

地域福祉コーディネーターの活動件数



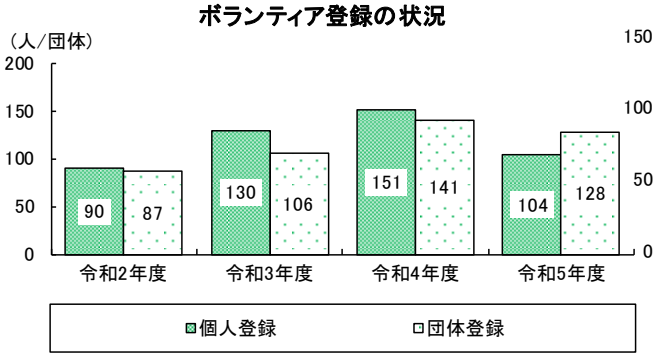
出典:大田区社会福祉協議会資料より

【ボランティアセンターボランティア登録状況・相談対応等の件数】

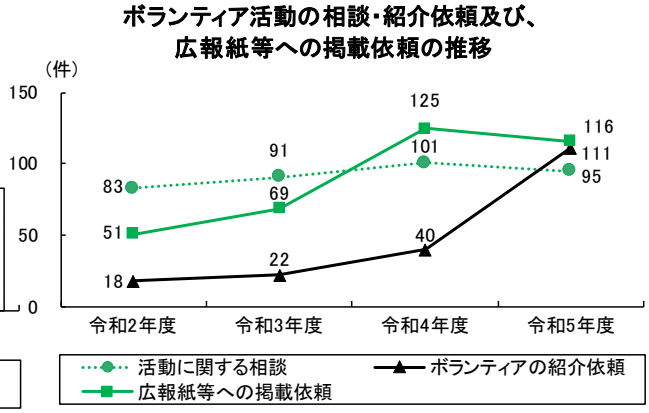
✧ボランティアセンターへのボランティア登録の状況は、令和5年度では個人登録が104人、団体登録が128団体となっている。

✧令和4年度から令和5年度にかけて、ボランティア活動に関する相談は減少が見られた一方で、ボランティアの紹介依頼は大幅な増加が見られた。

✧広報紙等への掲載依頼については横ばいで推移している。



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

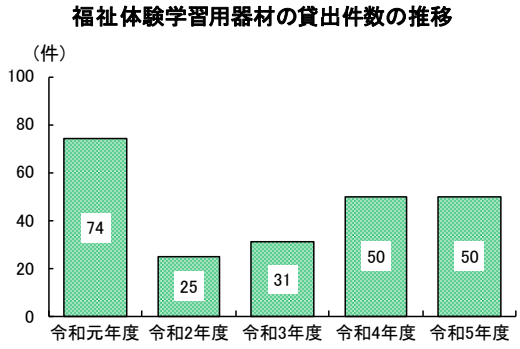


出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

④ 基本目標4に関連するデータ

【福祉体験学習用器材の貸出件数】

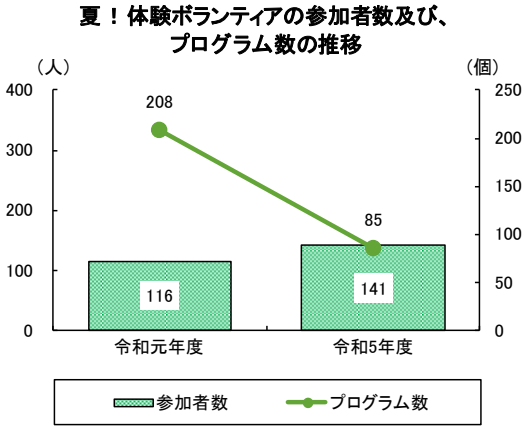
✧学校や企業への「妊婦体験セット」や車いす、白杖などの福祉体験学習用器材の貸出件数は、コロナ禍で減少したものの、令和5年度は50件と徐々に回復している。



出典：大田区社会福祉協議会 資料より（各年度末）

【夏！体験ボランティアの参加者数】

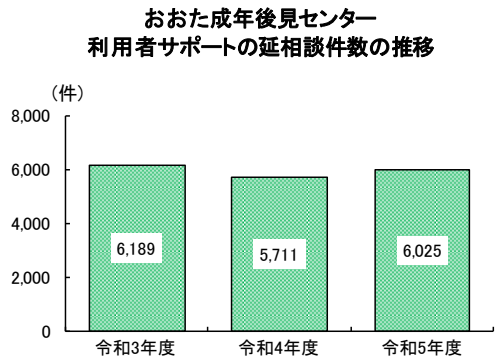
✧夏の長期休みを利用して区内の福祉施設や地域活動団体等でボランティア活動ができる「夏！体験ボランティア」は、コロナ禍前後でプログラム数が減少したものの、参加者数は増加している。



出典：大田区社会福祉協議会 資料より（各年度末）

【おおた成年後見センターの利用者サポート相談の延相談件数】

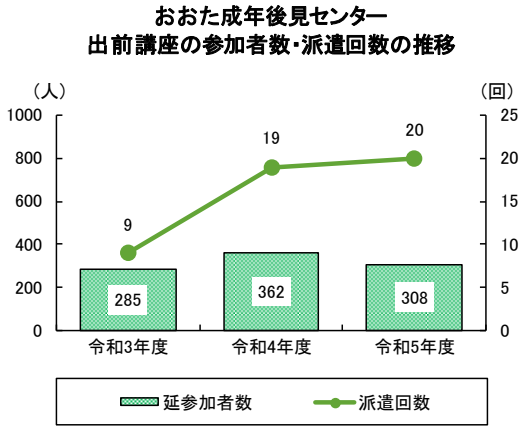
✧おおた成年後見センターが実施する成年後見制度や地域福祉権利擁護事業などの様々な相談を受ける「利用者サポート」の相談件数は、6千件前後で推移している。



出典：大田区社会福祉協議会 資料より（各年度末）

【権利擁護に関する出前講座の参加者数・派遣回数】

✧地域の団体や福祉従事者から依頼を受けて、老いじたくや成年後見制度の利用など、権利擁護に関する講座や研修会に、おおた成年後見センターの職員を講師として派遣する「出前講座」は、令和5年度は20回講師派遣を行い、延308人が参加している。



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告書より（各年度末）

（２）大田区社協の取組

第7次リボン計画における大田区社協の令和6年度の取組は、会議資料3のとおりである。

４．評価指標の考え方と評価指標（案）

（１）評価指標の考え方

評価指標の検討にあたっては、住民懇談会の意見、共通アンケートの結果、各種現状データや大田区社協の取組のほか、次の点も踏まえることとした。

① 第7次リボン計画で整理した事項

第7次リボン計画の取組ごとに整理した「5年後に向けてみんなと一緒にできること」の内容、同時期に策定された大田区地域福祉計画の指標も踏まえながら検討を行う。

- 第7次リボン計画の「5年後に向けてみんなと一緒にできること」の内容
  （住民だからこそできること／地域活動団体、社会福祉法人・福祉事業者や企業だからこそできること／大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと、大田区社会福祉協議会だからできること）
- 大田区地域福祉計画の9つの指標
  - ・孤立感や孤独感がないと答えた方の割合（基本目標1）
  - ・自宅以外で居心地のよい場所を持てる人の割合（基本目標1）
  - ・さまざまな特徴や個性を持つ人たちに対し、思いやりや優しさを持って接することができる人の割合（基本目標1）
  - ・多様な主体の連携・協働が住みやすい地域づくりにつながっていると実感している人の割合（基本目標2）
  - ・現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思う人の割合（基本目標2）
  - ・困りごとを抱えた際に誰にも相談できない人の割合（基本目標3）
  - ・災害時に、できる範囲で地域のために活動ができる人の割合（基本目標3）
  - ・成年後見制度の利用者数（成年後見制度利用促進基本計画）
  - ・成年後見制度の認知度（成年後見制度利用促進基本計画）

② アウトカム指標としての「5年後の地域の姿」

今回、共通アンケートの質問として地域の様々な方にその現状をたずねた「5年後の地域の姿」は、計画の取組を通じて実現を目指すもので、基本目標ごとの達成状況を計るアウトカム指標と考えられることから、今回設定する評価指標は、「5年後の地域の姿／取組」ごとに関連する項目を検討する。

③ 評価指標の数

また、上記①、②を踏まえて、「5年後の地域の姿／取組」ごとに、地域の住民、活動団体等の視点からの指標と、大田区社協の視点からの指標の2つずつ設定することが考えられる。

【基本目標１】顔が見える関係を大切にするまち（つながりづくり）を評価する指標(案)

基本目標1の取組・5年後に向けてみんなと一緒にできること・関連データ

取組１　日常的にゆるやかにつながり、災害時などに助けあえる関係性をつくろう。

＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●自治会・町会の行事や地域の防災訓練に参加し、顔見知りの人を増やします。（住民）

●活動を地域の人々に知ってもらい、つながるきっかけとなるコミュニティイベントを開催します。（団体・法人等）

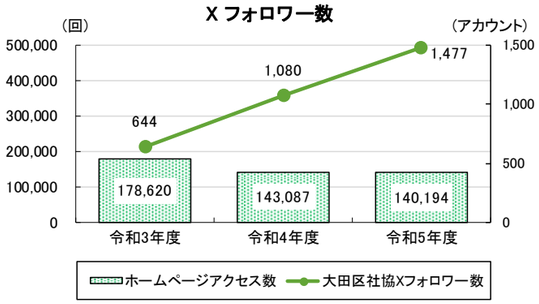
●**【地域ソーシャルメディアの運営】**
住民がイベント情報や地域の取組を共有できるよう地域の情報をシェアしやすいオンラインプラットフォームを構築します。（大田区社協）

＜関連データ＞

●大田区社会福祉協議会のホームページアクセス数は減少傾向の一方で、X(旧 Twitter)のフォロワー数は増加傾向となっている。

●令和５年度の災害ボランティアに関する取組では、「関東大震災 100 年フォーラム」は 81 名の参加があったほか、災害ボランティア育成講座には 27 名が参加している。

大田区社協ホームページのアクセス数及び X フォロワー数



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告書より

取組２　同じ地域で暮らす人々や、活動を行う団体、企業がつながりあえる場をつくり、地域の中での困りごとを受けとめよう。

＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●地域の中にどんな人が住んでいて、どんな心配ごとや困りごとがあるのかについて関心を持つようにします。（住民）

●同じような活動をしている団体とつながり、課題を共有しながら協力しあいます。（団体・法人等）

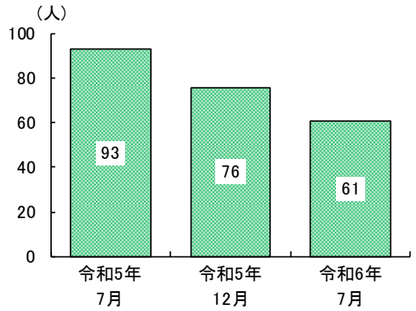
●**【多様なプラットフォームの展開、住民懇談会の開催】**
地域で暮らす人や活動する人などが集う場を設け、地域の課題や困りごとなどを受けとめ解決に向けた動きを共に考える機会とします。（大田区社協）

＜関連データ＞

●令和５年７月の初回以降、住民懇談会の参加者数は減少傾向となっている。

●地域課題を共有・協議する場である「たすけあいプラットフォーム」を実施する地域は、六郷、蒲田西、矢口、池上徳持南の４地域となっている。

住民懇談会参加者数



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

基本目標1に関連する住民懇談会での意見

＜「つながりづくり」の意見の分類上位５位＞

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 474 件	交流・関係づくり 150	活動・参加 66	拠点・居場所 54	子ども・子育て 41	情報 33
つながりづくり 163 件	交流・関係づくり 80	活動・参加 21	情報 16	共生・多様性 8	子ども・子育て 8

＜意見のまとめと主な意見＞

●特定の対象、機会、テーマによる「つながりづくり」のニーズがある。

・お祭り、防災訓練などのイベント＜調布(A)＞
・近所のひとからの評判や口コミから「いってみよう」と見える（男性のサロン）＜大森(B)＞
・音楽を通した交流（国際・障がい）＜蒲田(C)＞

●つながりをつくりづらい住民・コミュニティとの関係構築に課題がある。

・地域でのつながり作りたい　もっと小地域単位で　社協がやるだけでなく＜大森(C)＞
・マンション住民でつながりがない＜蒲田(A)＞
・同じ地域にあるタワーマンションとの関係性の構築の難しさ＜蒲田(C)＞

●地域の情報が十分に伝わっていない状況がある。

・現に活動しているグループの内容がよく解らない＜調布(C)＞
・何がしたいか発信してもらえるとありがたい＜大森(B)＞
・必要な情報が必要な人に届くような工夫（つながりを作る場へ行くための情報）＜蒲田(C)＞

「5年後の地域の姿」の現状についてのアンケート結果

(1) ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。

・全体結果を見ると、＜現状できている（36.8%）＞の割合が、＜現状できていない（23.2%）＞の割合を 13.6 ポイント上回っている。

(2) 地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。

・全体結果を見ると、＜現状できていない（35.8%）＞の割合が、＜現状できている（20.0%）＞の割合を 15.8 ポイント上回っている。
・対象ごとの結果では、地域福祉フォーラム参加者は、「どちらともいえない（43.9%）」の割合が最も高くなっている。

（単位：%, 点）

全体(N=310)	<現状できている> 5～4	どちらともいえない 3	<現状できていない> 2～1	無回答	加重平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	36.8	32.6	23.2	7.4	3.19
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	20.0	36.8	35.8	7.4	2.75

評価指標(案)

【取組1を評価する指標(案)】

①災害ボランティア関連イベントの参加者数

・大田区社協では、災害ボランティアセンターの「登録ボランティア交流会」など、災害時のための取組から地域のつながりを考えるきっかけづくりの取組を行っている。
・住民懇談会では、全体を通して「交流・関係づくり」の意見が多くみられた。
・いざという時に、地域の中で助けあい、支えあえるよう、地域の中のつながりづくりを進めていくために、「災害ボランティア関連イベントの参加者数」を指標として設定する。

②大田区社協のホームページアクセス数、X(旧 Twitter)フォロワー数

・大田区社協では、多様な媒体を通じた情報発信を行っており、近年では、取組や講座等の最新情報を、Xを通じて発信している。
・またコロナ禍では、特別貸付の情報案内等によるものかHPアクセス数の増加がみられた。
・住民懇談会では、地域情報の発信や必要な情報が届く仕組みついての意見もみられた。
・社協や地域の情報が多くの人に届くよう、「大田区社協のホームページアクセス数、Xのフォロワー数」を指標として設定する。

【取組2を評価する指標(案)】

①たすけあいプラットフォームの数、開催回数

・地域課題を共有・協議する「たすけあいプラットフォーム」は、現在、区内4地域にとどまり、開催回数は各地域で異なっている。
・共通アンケートでは、地域課題に対する住民同士の取組は＜現状できていない＞の割合が高い。
・地域の中で課題を解決できる仕組みづくりを進めていくために、「たすけあいプラットフォームの数、開催回数」を指標として設定する。

②住民懇談会の参加者数

・これまで住民懇談会は、第7次リボン計画の策定と計画の進捗状況、また地域課題などの意見聴取の場として設定し、実施してきた。
・今後も計画の進捗状況へのご意見をいただくとともに、地域について話し合える場として、多くの方に参加いただくために、「住民懇談会の参加者数」を指標として設定する。

【基本目標２】自分の居場所や役割があるまち（居場所づくり）を評価する指標(案)

基本目標2の取組・5年後に向けてみんなと一緒にできること・関連データ

取組３　地域の活動などに参加したり、役割の担い手になったりすることで、いきいきと過ごせるようにしよう。

＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●自分の得意なことや興味のあることについて整理し、地域の中でどんなことができそうか考えてみます。（住民）

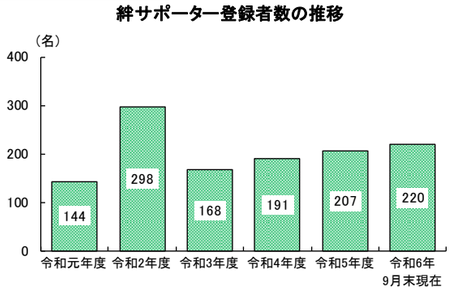
●活動の入り口を広くして、「お試し活動体験」「活動見本市」など、気軽に活動に参加してもらえるプログラムを検討・実施します。（団体・法人等）

●【いきいきしごとステーションでのシニア世代への就労支援】
いくつになっても自分らしく役割を持って生活したい人のために、就労相談やセミナーを実施し、就労につなげていくことはもちろんのこと、地域貢献にも興味のある人を含めて幅広く役割づくりを支援します。（大田区社協）

＜関連データ＞

●絆サポーター登録者数は令和６年９月現在 220 人。絆サポート事業の活動回数は 8,559 回、ほほえみごはん事業は 171 世帯が利用。

●大田区いきいきしごとステーションにおける無料職業紹介事業の令和５年度の就職者数は 130 人となっている。



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

取組４　居場所を提供する団体などを支援し、人が集う機会や役割を増やそう。

＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●思いを同じくする人と力をあわせて居場所づくりを実践します。（住民）

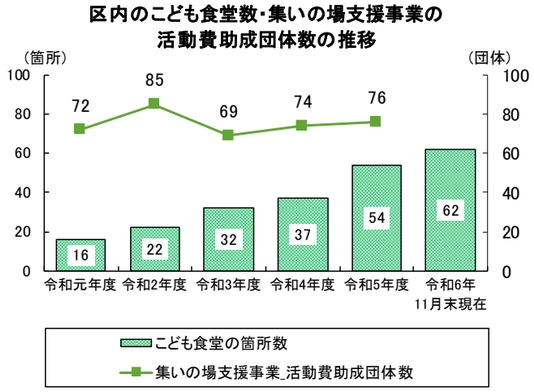
●所有する建物の一室を居場所として無料で貸し出しするなど、活動を支援します。（団体・法人等）

●新たに居場所づくりに取り組みたい団体や個人からの相談に応じ、支援します。（大田区社協）

＜関連データ＞

●区内のこども食堂数は、年々増加しており、令和６年 11 月現在 62 箇所となっている。

●活動費助成や運営の助言などを行う集いの場支援事業の対象団体数は、令和５年度は 76 団体となっている。



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

評価指標(案)

【取組3を評価する指標(案)】

①絆サポーターの登録者数

・大田区社協は、区民が地域のささえあい活動の担い手(「絆サポーター」)として活躍する「絆サポート事業」などの事業を進めてきた。

・毎年度、多くの事業利用があるが、事業を支えるサポーターの確保は依然、課題としてある。

・年代を問わず、地域活動の担い手づくりを進めていくために、「絆サポーターの登録者数」を指標として設定する。

②大田区いきいきしごとステーションでの高齢者の就労等のマッチング件数

・「大田区いきいきしごとステーション」では、高齢者の社会参加を含めた、就労支援の取組を進めている。コロナ禍以降、ステーションを通じた就職者数は減少したが、新規求職者数は一定の水準を保っている。

・高齢者が就労を通じて、生きがいを持って、元気にいきいきと過ごせるよう、「「大田区いきいきしごとステーション」での高齢者の就労等のマッチング件数」を指標として設定する。

【取組4を評価する指標(案)】

①居場所づくりの相談件数

・大田区社協は、地域の居場所づくりに関する取組として、集いの場支援事業やこども食堂への支援に取り組んでいる。

・住民懇談会では、多様な居場所のニーズが伺え、共通アンケートでは、居場所づくりの意識は対象によって違いがみられた。

・地域で交流や活動ができる多様な集いの場、居場所づくりを進めていくために、「居場所づくりの相談件数」を指標として設定する。

②活動場所の貸出を行う社会福祉法人等の件数

・住民懇談会の意見では、活動拠点となる場そのものや、福祉事業所の施設開放による場所の貸出・施設利用者との交流希望の意見もみられた。

・区内の社会福祉法人等と協力・連携し、新たな活動の拠点や居場所づくりを進めるために、「活動場所の貸出を行う社会福祉法人等の件数」を指標として設定する。

基本目標2に関連する住民懇談会での意見

＜「居場所づくり」の意見の分類上位５位＞

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 474 件	交流・関係づくり 150	活動・参加 66	拠点・居場所 54	子ども・子育て 41	情報 33
居場所づくり 162 件	交流・関係づくり 40	拠点・居場所 39	子ども・子育て 25	活動・参加 24	共生・多様性 10

＜意見のまとめと主な意見＞

●男性の居場所や誰もが集える場のニーズがある。

・男性は素が出せない、外に向けて発信しない⇒男性の居場所づくり(メンズサロン)＜調布(C)＞
・男性も居場所を求めている＜大森(B)＞

●地域の居場所の情報が不足している。

・自分から居場所に繋がらない人へは、こちらから発信していく＜糀谷・羽田(B)＞

●交流や活動の拠点や場の確保・開拓が求められている。

・住民誰でも立ち寄れ、行きたくなる場所が必要＜調布(C)＞
・GH を開放してもっと地域の方に知ってほしい＜大森(D)＞
・イベントをやれるスペースがない⇒住民の方は期待してくれている＜蒲田(A)＞

●子ども食堂、外国籍の子どもなど子どもへの支援活動の意見は多い。

・外国籍の子どもの居場所づくり＜大森(C)＞
・子ども食堂を通した居場所＜糀谷・羽田(B)＞
・子どもの居場所づくり（宿題を高齢者が見守る）＜糀谷・羽田(B)＞

「5年後の地域の姿」の現状についてのアンケート結果

(3) 地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。

・全体結果では、「どちらともいえない(37.4%)」の割合が最も高いが、＜現状できている（34.2%）＞の割合が、＜現状できていない（19.4%）＞の割合を 14.8 ポイント上回っている。

(4) 地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。

・全体結果では、＜現状できている（33.9%）＞の割合が最も高くなっている。

・対象ごとの結果では、地域福祉フォーラム参加者、募金活動協力者は、＜現状できている（地:45.1%、募:35.4%）＞の割合が高く、一方で、住民懇談会参加者、ボランティアのつどいの参加者は、＜現状できていない（住:39.3%、ボ:36.8%）＞の割合が高くなっており、対象によって意識の違いがみられた。

（単位:%, 点）

全体(N＝310)	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重平均
(3)地域の中で生きがいを持って、生活をすることができる。	34.2	37.4	19.4	9.0	3.22
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	33.9	33.2	25.8	7.1	3.11

【基本目標３】身近なところでささえあうまち（支えあい）を評価する指標(案)

基本目標3の取組・5年後に向けてみんなと一緒にできること・関連データ

取組５　地域の中には気軽に相談できる場所（人）がある（いる）ことを知り、ひとりで悩んでいる人がいたらそのことを伝えよう。

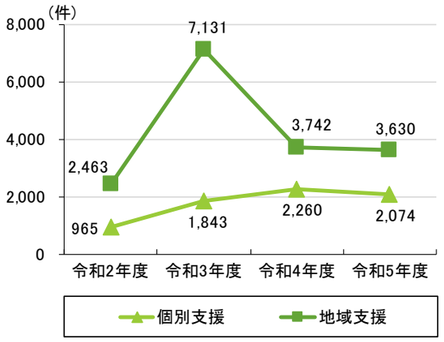
＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●自分の暮らす地域の中に、どんな相談窓口があるのかを調べてみます。（住民）
●日々の活動を通じて把握した困りごとについて、専門機関などにつなげます。（団体・法人等）
●地域のイベントに参加する際は地域福祉コーディネーターによる相談ブースを設け、大田区社協の存在と役割を知ってもらえるよう努めます。（大田区社協）

＜関連データ＞

●令和５年度の地域福祉コーディネーターの活動件数は、個別支援、地域支援ともに前年度をやや下回っている。

地域福祉コーディネーターの活動件数



出典：大田区社会福祉協議会資料より

取組６　ボランティア活動や企業などの地域貢献活動を通じて、地域の中の困りごとを受けとめ、みんなで支えあおう。

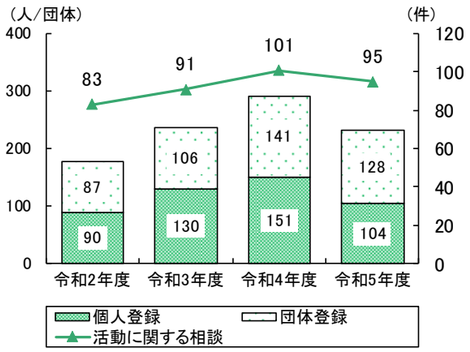
＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●地域の中で、どんなボランティア活動があるのかを調べてみます。（住民）
●法人や事業者、企業の強みを生かし、地域の困りごとや生活課題に対し、どのようなことができるかを考え、解決に向けた取組を始めてみます。（団体・法人等）
●ボランティア活動を行いたい人の相談に応じ、活動ができるように支援します。（大田区社協）

＜関連データ＞

●令和５年度のボランティア登録・相談対応件数は、いずれも前年度を下回っている。
●令和４年度のフードドライブでは、16 の企業より食料品の寄附があった。

ボランティア登録・相談対応の状況



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告

評価指標(案)

【取組5を評価する指標(案)】

①地域福祉コーディネーターへの相談件数

・「地域福祉コーディネーター」を配置し、地域生活課題への個別支援、地域ネットワークづくりを進めてきた。
・共通アンケートでは、相談先の認知は<現状できている＞の割合が高いが、住民懇談会では、相談機関へのつなぎ方の意見もみられた。
・身近な地域で困りごとを受け止め、支援につなげていくために、「地域福祉コーディネーターへの相談件数」を指標として設定する。

②民生委員・児童委員への相談件数

・民生委員・児童委員は、地域の中の身近な相談窓口として、生活上の困りごとの解決の活動に携わっている。
・また、大田区社協の様々な取組でも連携・協働しており、地域福祉を推進するうえでの重要なパートナーである。
・地域福祉を進めていくには、民生委員・児童委員の活動が重要と考えることから、「民生委員・児童委員への相談件数」を指標として設定させていただき、連携・協働を一層進めながら、地域福祉の推進に向けた取組を進める。

【取組6を評価する指標(案)】

①ボランティア登録者数

・「おおた地域共生ボランティアセンター」にて、ボランティアの登録・需給調整・相談助言、普及・啓発に取り組んでいる。
・ボランティアの登録状況は、個人・団体ともに 100 以上の登録があるが、住民懇談会では担い手不足の意見もみられる。
・ボランティア活動の担い手を増やし、地域の中の支えあいを進めるために、「ボランティア登録者数」を指標として設定する。

②地域貢献活動・CSR 活動の相談・支援件数

・フードドライブ・フードパントリーといった「食」を通じた支えあい活動では、多く企業からも食料品の寄附をいただいた。
・企業が持つ力などを地域生活課題の解決に向けた取組につなげていくために、「地域貢献活動・CSR 活動の相談・支援件数」を指標として設定する。

基本目標3に関連する住民懇談会での意見

＜「支えあい」の意見の分類上位５位＞

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 474 件	交流・関係づくり 150	活動・参加 66	拠点・居場所 54	子ども・子育て 41	情報 33
支えあい 82 件	人材・担い手 11	相談・支援 11	交流・関係づくり 10	活動・参加 9	拠点・居場所 7

＜意見のまとめと主な意見＞

●地域の支えあいの「人材・担い手」は依然として不足している。

・担い手不足⇒20 年後担う人がいない。現在も前と同じ活動ができていない＜調布(B)＞
・ボランティアの育成。地域に奉仕する気持ちの熟成。＜調布(C)＞
・若者の力を活用できるようボランティアを育成する＜調布(C)＞
・ボランティアさんが集まらない（特に編み手）＜蒲田(C)＞

●相談や支援について地域と情報共有を深める必要がある。

・生活困窮←入り込みたい。どこまで…？＜大森(A)＞
・相談機関との連携　どういうところにつなげたらよいか＜大森(E)＞
・必要なところに働きかけるソーシャルアクションを実施＜大森(E)＞
・町内のひとり親のお母さん　社協、ミントおおたにつながっていったけどまだまだ足りない＜蒲田(A)＞
・少しの困りごとでも気軽に相談し合える仲間作り＜蒲田(B)＞

「5年後の地域の姿」の現状についてのアンケート結果

(5) ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。

・全体結果では、＜現状できている（42.3%）＞の割合が、＜現状できていない（17.1%）＞の割合を 25.2 ポイント上回っている。

(6) 身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。

・全体結果では、「どちらともいえない（37.1%）」が最も高くなっている。
・対象ごとの結果では、地域福祉フォーラム参加者、募金活動協力者は、＜現状できている（地:31.7%、募:36.7%）＞の割合が、住民懇談会参加者、ボランティアのつどい参加者は＜現状できていない(住:36.1%、ボ:35.3%)＞の割合がやや高くなっている。

（単位:%, 点）

全体(N=310)	<現状できている> 5～4	どちらともいえない 3	<現状できていない> 2～1	無回答	加重平均
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。	42.3	33.9	17.1	6.8	3.40
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	29.7	37.1	25.2	8.1	3.05

【基本目標４】お互いを認めあい誰もが自分らしく暮らせるまち（自分らしく生きる）を評価する指標(案)

基本目標4の取組・5年後に向けてみんなと一緒にできること・関連データ

取組７　地域で暮らすさまざまな人たちへの理解を深めるために福祉学習に参加しよう。

＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●福祉施設で開催されるお祭りに参加してみます。（住民）

●福祉の専門性を生かし、地域に向けてできる福祉学習のプログラムなどについて、話しあいます。（団体・法人等）

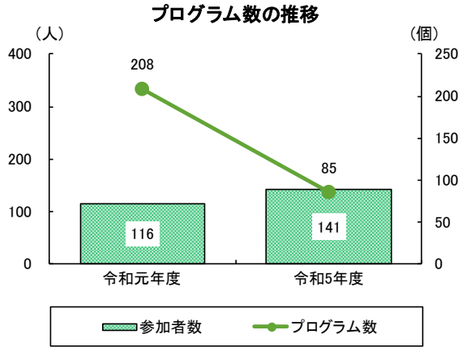
●教育現場における福祉学習にとどまらず、地域共生社会の実現に向けて、世代や分野を超えた幅広い視点において、多様性の理解を深める機会をつくります。（大田区社協）

＜関連データ＞

●学校や企業への「妊婦体験セット」や車いす、白杖などの福祉体験学習用器材の貸出件数は、コロナ禍で一時減少したものの、令和5年度は50件と徐々に回復している。

●「夏！体験ボランティア」は、コロナ禍前後でプログラム数が減少したものの、参加者数は増加している。

夏！体験ボランティアの参加者数及び、プログラム数の推移



出典：大田区社会福祉協議会 資料より（各年度末）

取組８　障害や認知症などの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるよう、権利擁護の推進をはじめとした支援について理解しよう。

＜主な５年後に向けてみんなと一緒にできること＞

●老いじたく講演会や相談会など、地域のイベントに参加してみます。（住民）

●支援方法や制度理解を深めるために、権利擁護支援などの研修会に参加してみます。（団体・法人等）

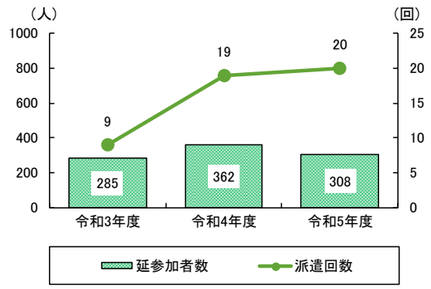
●成年後見制度推進機関として、障害や認知症により権利が損なわれないよう成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知啓発を行い、関係機関と連携して制度の利用に関する相談支援を行います。（大田区社協）

＜関連データ＞

●おおた成年後見センターの利用者サポート相談の延相談件数は、6,000件前後で推移している。

●地域の団体や福祉従事者から依頼を受け実施する権利擁護に関する講座や研修会に、おおた成年後見センターの職員を講師として派遣する「出前講座」は、令和5年度は20回講師派遣を行い、延308人が参加している。

おおた成年後見センター
出前講座の参加者数・派遣回数の推移



出典：大田区社会福祉協議会 事業報告書より（各年度末）

基本目標4に関連する住民懇談会での意見

＜「自分らしく生きる」の意見の分類上位５位＞

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 474 件	交流・関係づくり 150	活動・参加 66	拠点・居場所 54	子ども・子育て 41	情報 33
自分らしく生きる 67 件	交流・関係づくり 20	活動・参加 12	共生・多様性 7	情報 5	拠点・居場所 4

＜意見のまとめと主な意見＞

●人とのつながり・交流の重要性が挙がっている。

・自分らしく生きる　楽しめれば良い　人とのつながり大切＜大森(C)＞

・人見知りなので積極的な声掛け。＜大森(A)＞

●自身のスキルを活かせる機会の創出、生きがいづくりの必要性があがっている。

・長所を活かせる活動＜蒲田(C)＞

・やりたいことの応援団⇒本人の特技を生かす⇒どこかひつようとしているところに繋げる（役割作り）＜調布(B)＞

●自分らしく生きられる環境や制度・仕組みの意見が出ている。

・他人を尊重できるから、自分も尊重してもらえる。＜大森(A)＞

・親亡き後の自分らしい暮らしを続けるには…＜大森(E)＞

・一人暮らしの方のいざというときの連絡登録（老いじたく）＜調布(A)＞

「5年後の地域の姿」の現状についてのアンケート結果

(7) 一人ひとりの生き方を理解しあっている。

・全体結果では「どちらともいえない（41.0%）」が最も高くなっている。

・対象ごとの結果では、住民懇談会参加者、ボランティアのつどい参加者は、＜現状できていない（住:31.1%、ボ:35.3%）＞の割合もやや高くなっている。

(8) 判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。

・全体結果では「どちらともいえない（42.3%）」が最も高くなっている。

・対象ごとの結果では、住民懇談会参加者は＜現状できていない（41.0%）＞の割合が最も高くなっている。

（単位:%,点）

全体(N=310)	＜現状できている＞ 5～4	どちらともいえない 3	＜現状できていない＞ 2～1	無回答	加重平均
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	25.2	41.0	26.1	7.7	3.01
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	21.0	42.3	27.1	9.7	2.91

評価指標(案)

【取組7を評価する指標(案)】

①夏！体験ボランティアの参加者数

・大田区社協では、夏季の長期休暇期間に、区内の福祉施設や地域活動団体等でボランティア活動ができる「夏！体験ボランティア」事業を実施している。

・共通アンケートでは、共生・多様性への理解について、できているか「どちらともいえない」の割合が高い。

・多くの人に福祉や共生・多様性への理解を深めてもらうために、「夏！体験ボランティアの参加者数」を指標として設定する。

②福祉教育の支援件数と参加者数

・大田区社協では、福祉教育として「福祉体験学習用機材」の貸出、学習会を行う地域活動団体などへの支援を行ってきた。

・様々な地域活動団体などによって福祉教育が行われることで、地域の中で共生・多様性の理解を進むよう、「福祉教育の支援件数、参加者数」を指標として設定する。

【取組8を評価する指標(案)】

①成年後見制度等の区民向け講座の参加者数

・「おおた成年後見センター」では、成年後見制度の相談・利用支援、市民後見人養成などのほか、専門職や関係機関と連携した各種講演会・講座を開催している。

・共通アンケートでは、地域の中で自分らしく生きられる権利擁護等の体制ができているか、「どちらともいえない」の割合が高い。

・地域の中で、誰もが自分らしく暮らし続けられるよう、権利擁護支援や成年後見制度について広く周知を進めていくために、「成年後見制度等の区民向け講座の参加者数」を指標として設定する。

②成年後見制度等の研修会の参加事業所数

・「おおた成年後見センター」では、「福祉従事者向け法律講座」も実施している。

・当事者の権利や意思決定が守られるためには、福祉サービスや生活支援に携わる福祉従事者自身も制度について熟知している必要があるため、「成年後見制度等の研修会の参加事業所数」を指標として設定する。